

昭和40年度

# 地力保全基本調査成績

〔日高山脈東山麓地域一広尾町〕

北海道立中央農業試験場

# 序

現状における土地生産力は、土壤の諸種の阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつつある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するための昭和34年より農林省農政局の助成をえて基本的土壤調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和40年度に行なつた15市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和41年3月

北海道立中央農業試験場  
三島京治

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3科）によつた。

土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

### 調査職員氏名

化学部	部長	長谷部	俊雄
”	土壤改良科 科長	後藤	計二
”	” 第1係長	小林	荘司
”	” 研究職員	高尾	欽彌
”	”	菊地	晃二
”	”	水元	秀彰

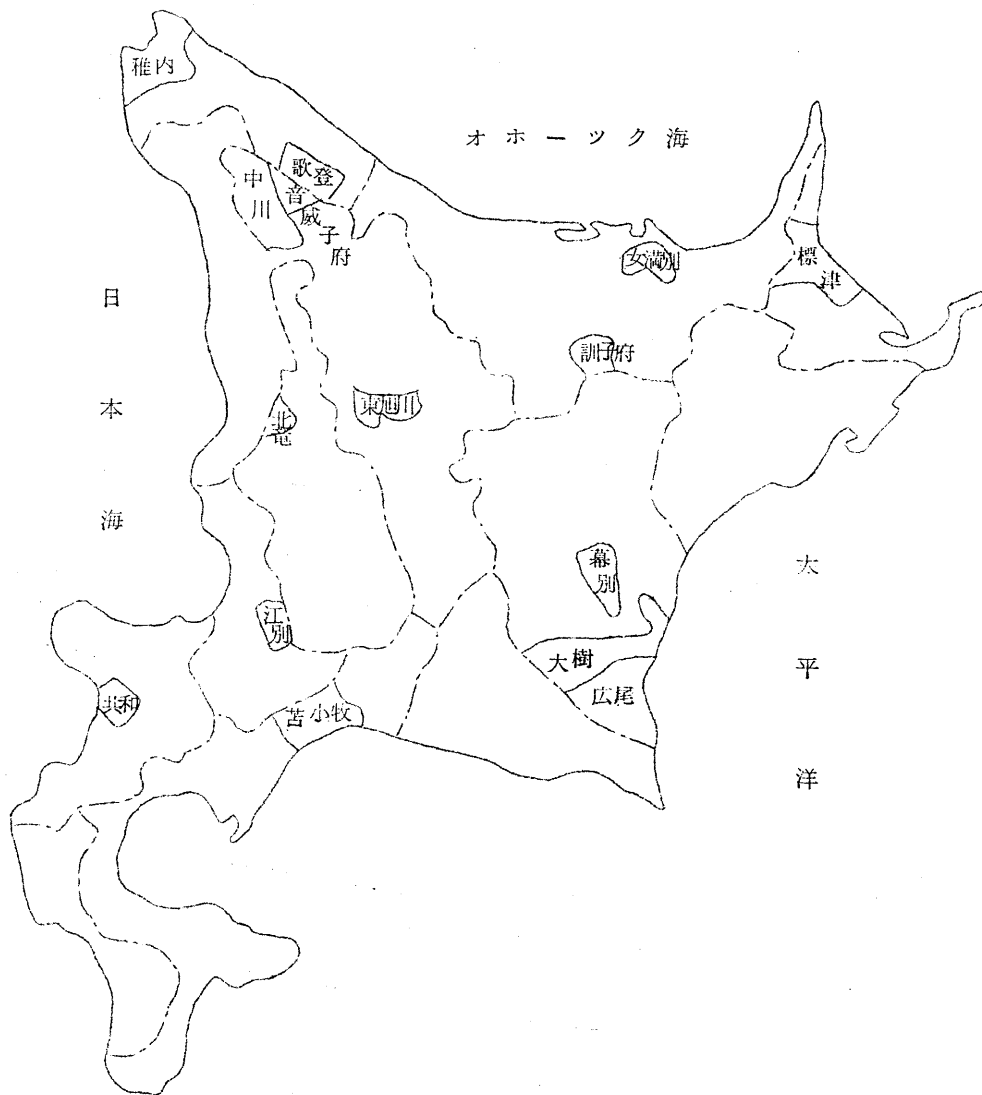
### 主に土壤分析を担当した職員

化学部	土壤改良科	研究職員	谷口	未吉
”	”	”	小野	清子

# 1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当	農 地 面 積 ( 調 査 対 象 面 積 )		既 調 査 面 積		本 年 度 調 査 面 積	
	郡 市 町 村 名	水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
共 和	岩内郡共和村	2,372.0 <sup>ha</sup>	3,176.0 <sup>ha</sup>	2,372.0 <sup>ha</sup>	2,000.0 <sup>ha</sup>	0 <sup>ha</sup>	1,176.0 <sup>ha</sup>
石狩川下流	江別市	3,456.0	4,767.0	0	3,000.0	3,456.0	1,767.0
空知郡北部	雨竜郡北竜町	1,891.0	897.0	1,800.0	0	91.0	897.0
上川中央	旭川市(東旭川町)	4,524.0	1,462.0	4,000.0	0	524.0	1,462.0
上川北部	中川郡音威子府村	64.0	1,590.0	0	1,000.0	64.0	590.0
上川北部	中川郡中川町	81.0	3,883.0	0	1,000.0	81.0	2,883.0
稚 内	稚 内 市	0	2,736.0	0	1,000.0	0	1,736.0
頓 別	枝幸郡歌登町	0	2,987.0	0	1,000.0	0	1,987.0
網走湖畔	網走郡女満別町	923.7	6,420.0	0	4,200.0	923.7	2,220.0
北 見	常呂郡訓子府町	550.0	5,141.0	0	4,000.0	550.0	1,141.0
標 津	標津郡標津町	0	2,740.0	0	1,000.0	0	1,740.0
日高山脈東山麓	広尾郡大樹町	0	10,000.0	0	5,000.0	0	5,000.0
日高山脈東山麓	広尾郡広尾町	0	4,850.0	0	2,000.0	0	2,850.0
十勝中部	中川郡幕別町	328.0	14,900.0	0	5,000.0	328.0	9,900.0
樽前山南山麓	苫小牧市	435	2,796.7	0	0	435	2,796.7
合 計		14,233.2	68,345.7	8,172.0	30,200.0	6,061.2	38,145.7

調査地区位置図



# 日高山脈東山麓地帯広尾地区

## 1、地区の概況

### 1) 位置及び調査面積

#### (1) 位置

十勝支庁管内、広尾郡広尾町

#### (2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調査面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
広尾郡広尾町	0	4,850		4,850	—	4,850		4,850	—	2,000		2,000

郡市町村名	本年度調査面積				次年度以降調査面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
広尾郡広尾町	—	2,850		2,850	0	0	0	0	完了

### 2) 気 候

東北海道の太平洋沿岸に位置するため、海洋の影響を受ける。夏季は特に海霧の襲来が多く、気温が比較的上らず、一般に冷涼に経過することが多い。秋季は比較的好天に恵まれるが同時に気温が低下し、一般に初霜が早く、気候的に恵まれていない。

広尾気候観測所に於ける成績は次の通りである。

(1925～1950の平均)

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11
		気 平 均	4.6	9.4	12.9	17.4	19.9	18.7	11.2
温 最 高 平 均	9.5	14.5	17.5	21.4	23.9	26.9	16.4	9.8	
(c) 最 低 平 均	-0.3	4.2	8.4	13.3	15.8	12.7	5.9	0.4	
降 水 量 (mm)	平 均	103.0	110.9	109.2	131.5	147.5	234.5	153.2	155.0
	1日最多量	183.8	135.9	197.2	262.8	156.0	313.3	129.0	135.0
霧 日 数	—	—	15	10	2	—	—	—	
降 水 日 数	8.7	9.3	9.4	10.8	10.5	12.2	9.8	10.9	

晩霜5月9日、初霜10月13日

### 3) 土地条件

#### (1) 地 形

本地区は広尾町の西側、日高山脈に面して分布している。標高は60～120mで略平地の台地が大部分を占めているが、山地に接するところに一部扇状堆積地が存在し、傾斜地を形成している。また地区内に豊似川、野塚川、楽古川が存し、その流域は沖積低地が存する。低地は農耕地として利用されているがその割合は少なく、主要農耕地帯は沖積面より高い洪積台地に分布している。

#### (2) 地 質

台地は基盤が洪積世堆積物からなる砂礫層で、その上部には凝灰質のローム層が堆積しており、最表層は主として粗粒な有珠火山灰に被覆されている。各河川の流域は沖積世堆積物から構成されている。また山岳地帯に接するところは中世層第三紀層を母材とする扇状堆土から成るものが存する。

(3) 侵蝕状況

本地帯は春先きに強風が多く、台地の乾燥地帯では甚しい風蝕を受けている。また傾斜をなす扇状地には一部水蝕が認められる。

(4) 交通

本地区の東側に道道が貫通し、一部を除いて町道、農道も良く整備されている。冬期間の積雪と春先の融凍時を除けば、交通は便利である。

4) 土地利用及び営農状況

広尾町全体の状況は次の通りである。

a) 経営面積(1戸当り平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
17.2	0	9.2	0	8.0

b) 作付面積(1戸当り平均ha)

作物	大麦	えん麦	小豆	大豆	馬鈴薯	ビート	飼料作物
面積	0.24	1.10	0.56	1.17	0.61	0.45	2.20

c) 耕種肥培慣行及び収量(Kg/a)

作物	元 肥				追 肥			収 量
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	堆 肥	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	
大 麦	15	30 (過石) 10 (溶磷)	15					100
小 豆	15	50	10					90
大 豆	10	40 10	20					120
菜 豆	10	40 10	20					100
馬 鈴 薯	30	80	25	2,000				2,100
テ ン サ イ	20(安) 25(チ) 10(尿)	50 30	20	800~ 1,000				2,500
え ん 麦	12	40	8					3,000
牧 草	5	3	2					3,000
デ ン ト コ ン	20	40	12					3,500

d) 家畜の種類及び頭数(総戸数421戸)

	馬	乳牛		豚	山羊	綿羊	鶏
		成牛	育成牛				
飼育戸数	382	347	347	41	—	46	—
飼育頭数	1,189	1,034	510	130	—	83	—
1戸当平均飼育頭数	2.8	2.5	1.2	0.3	—	0.2	—

e) 農機具及び施設(421戸の総数)

種類	数量	種類	数量
トラクター(個人)	8		
(共有)	2		
耕耘機(個人)	3		
(共有)	0		
トラック(個人)	0		
(共有)	4		

f) 労働の関係(1戸当り人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
6.7	2.9	1.4	4.7

当町全体の農家戸数は421戸で、このうち専業農家は323戸である。一戸当りの耕地面積は92ha、一戸当り総面積は17.2haで経営面積は大きい。本地帯に於いては農期間の気温が低く、加えて海霧の襲来が夏季に特に多く、悪い条件のために従来の不安定な穀類経営から、乳牛を主体とした主畜経営に進みつつある。

現在は平均馬1頭、乳牛4.4頭、ブタ3.2頭、ニワトリ41.8羽で混同経営が行なわれている。主作物としては牧草、えん麦、デントコン等の飼養作物と大豆、小豆、ビート、馬鈴薯等が作付けられている。農機具は耕耘機、トラクター等も導入されつつあるが、その量はまだまだ少ない。今後の課題としては主畜経営の方向に転換しつつあるが、その基盤を確保するための諸施策が進められ、現在構造改善事業等の計画を策定し、この推進により安定な経営の確立を期す必要にせまられている。

## 2、土壌類型区分及び説明

### 1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

#### (1) 土壌統一覧

土壌統名	色層序	腐植層序	礫砂礫層 礫を混在 する砂層	酸化 沈積物	土性		母材、堆積様式
					表土	次層	
更正	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(風積) 非固結水成岩(洪積)
尾張	"	表層多腐植層	"	"	"	粘質	" "

土壤統名	色層序	腐植層序	礫砂礫層 を混在 する砂層	酸化 沈積物	土 性		母材、堆積様式	
					表 土	次 層		
中紋別	YR/YR	表層多腐植層	なし	あり	粘 質	強粘質	非固結火成岩 (風積)	非固結水成岩 (洪積)
松 山	"	表層腐植層	あり	なし	壤 質	壤 質	"	"
紋 別	"	"	なし	"	"	"	"	"
香 福	"	"	あり	"	"	"	"	"
広 尾	"	表層多腐植層	"	"	粘 質	粘 質	"	"
中楽古	"	"	"	"	"	強粘質	"	(風積) 崩積
紋別西	"	表層腐植層	"	あり	壤 質	粘 質	"	"
西野塚	"	"	"	なし	強粘質	強粘質	"	(沖積)
香福南	"	"	"	"	壤 質	壤 質	"	"
中豊似	"	全層多腐植層	なし	"	"	強粘質	"	"
尾張南	"	"	あり	あり	"	"	"	"
野 塚	YR/Y	表層腐植層	なし	なし	"	壤 質	"	"
当 縁	—	—	—	—	—	—	低位泥炭	(集積)

(2) 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡略分級式	面積 (ha)	備 考 (農耕可能面積)
更 正一更 正	III <sub>tn</sub> e II(w)fs	373	915 (ha)
尾 張一尾 張	III <sub>fn</sub> IIwse	160	405
中紋別一 中紋別	III <sub>wfn</sub> IIae	61	150
松 山一松 山	III <sub>dfn</sub> e II <sub>t</sub>	1,257	3,085
紋 別一紋 別	III <sub>e</sub> II <sub>fn</sub>	586	1,438
香 福一香 福	III <sub>e</sub> II <sub>dfn</sub>	140	345
広 尾一広 尾	II <sub>gpw</sub> fn <sub>e</sub>	152	375
中楽古一 中楽古	III <sub>d</sub> II <sub>pwfn</sub> ise	421	1,035
紋別西一 紋別西	III <sub>dw</sub> II <sub>gpfn</sub> ise	293	720
西野塚一 西野塚	III <sub>d</sub> II <sub>pwfn</sub> i	165	405
香福南一 香福南	III <sub>d</sub> II <sub>wf</sub> e	520	1,275
中豊似一 中豊似	II <sub>fn</sub> ie	336	825
尾張南一 尾張南	III <sub>w</sub> II <sub>d</sub> g <sub>fn</sub> ise	165	405
野 塚一野 塚	III <sub>n</sub> II <sub>f</sub> e	165	405
当 縁一当 縁	N <sub>w</sub> III <sub>fn</sub> II <sub>t</sub>	45	45



2) 土壤統別説明

更 正 統

(1) 土壤統の概況

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～18cmで、腐植含量5%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2～3明度2～3である。礫を含まず、発達弱度の細粒状構造或は単粒構造を呈す。ち密度7～10で頗る疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5～6.3。下層との境界は直線明瞭である(火山灰層)

第2層は、風蝕の被害の大きいところは欠除しているが、厚さ8～10cm。腐植含量7%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度2～4、明度3で、礫を含まず、発達弱度の粒状構造と細塊状の複合構造を呈す。ち密度15～18疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は波状少々明瞭である。

第3層は(第2層が風蝕により欠除しているところは作土直下に存在し第2層となる)。厚さ10～20cmで、腐植2%以下土性はL～SLである。色は10YRで彩度4～6、明度3～6である。礫を含まず、発達弱度の塊状構造を呈す。ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層との境界は波状漸変する。

第4層(第2層が風蝕により欠除しているところは第3層となる)は厚さ13～25cmで、腐植を含まず、土性はSL～Sである。色は10YRで彩度6～8、明度5～7である。礫なく、発達弱度の塊状構造を呈し、ち密度15～18で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)6.0～6.5、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は(第2層が風蝕により欠除しているところは第4層)地表下50～70cm以下で、腐植を欠き、土性はSである。色は7.5YRで彩度6、明度7である。礫なく、単粒状構造を呈し、ち密度20～24で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町字更正 試抗№75

第1層	0～18cm	腐植を含む～富む、暗褐色(10YR 3/3)のSL、礫なく、発達弱度の細粒状構造及び単粒構造、細孔に富む、ち密度12で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.2、調査時の湿り乾、層界直線明瞭(火山灰層)
第2層	18～28cm	腐植に富む暗褐色(10YR 3/4)のL、礫なく、発達弱度の粒状構造と細塊状構造の複合構造、細孔に富み、ち密度16で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半乾、層界波状少々明瞭。
第3層	28～37cm	腐植を欠く灰黄褐色(10YR 5/4)のSL、礫なく、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富み、ち密度14で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り湿、層界波状漸変。
第4層	37～50cm	腐植を欠く黄褐色(10YR 5/8)のLS、礫なく、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.5、調査時の湿り湿、層界波状明瞭。
第5層	50cm～	腐植を欠く明黄橙色(7.5YR 7/6)のS、礫なく、単粒状構造、ち密度20で中。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 $\rho$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0-18	3.2	30.5	46.3	14.1	9.2	SL	70.6	2.43	2.93	0.21	14
2	18-25	8.2	12.3	50.1	37.6	0	L	64.6	2.42	4.57	0.32	14
3	25-37	6.4	13.2	53.0	33.8	0	SL	—	—	1.20	0.15	8
4	37-50	10.0	27.1	69.1	33.7	0	LS	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 $Y_1$	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	燐酸吸収係数	有効態燐酸mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	6.2	5.2	0.50	10.6	3.4	0.5	0.2	32.0	8.42	2.0
2	7.9	5.9	4.9	0.75	19.0	2.4	0.4	0.3	12.6	—	tr
3	2.1	6.0	4.9	0.75	12.9	1.6	0.4	0.2	12.4	—	—
4	—	6.5	5.1	0.50	18.4	0.6	0.7	0.2	3.0	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては当緑統、芽武南統、崩和統、美成統等があるが、当緑統は低位泥炭であり、芽武南統は下層が河成沖積であり、崩和統は下層の堆積様式並に腐植層序の相違により夫々本統と区別される。又美成統とは成因、堆積様式を同じくするが、下層の母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積世堆積

B 地形

標高20～70cmの緩波状性傾斜を有する段丘性台地。

C 気候

盛夏は海縁の寒気があり、夏は一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、農業上好ましくない気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

一部植林地となっているが、大部分は耕地として利用され、大麦、えん麦、大豆、菜豆、小豆、馬鈴薯、ビート、牧草その他の飼料作物が作付られている。

E 農業上の留意事項

前述の美成統にも増して風蝕を受けるので、幹線防風林、耕地防風林の一層の完備が必要である。特に沿岸地域は防風防霧林としての山林の保護が大切である。

本統は元来表土の比較的浅いところであるが、風蝕の影響によつて極端に浅くなっているところもかなり見受けられるので、堆肥、緑肥等有機物の施入による地力の増進が肝要と思われる。

F 分布 広尾郡広尾町 下野塚、東紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
更 正 統 一 更 正 区	III tne II(W) fs

② 土壤区別説明

更正統一更正区

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	表土の風乾土の硬さ	土地の乾湿	透水性	保湿性	自然肥沃度	固肥力	土層の塩基状態	養分豊富	置換性石灰含量	置換性苦土含量	有効態加里含量	酸度	障害性	物理的障害性	化学的障害性	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	侵蝕度	耐蝕性	耐風蝕性					
III	t	d	g	p	W	1	1	(2)	f	II	2	2	2	III	3	3	3	3	1	I	1	1	II	2	NSEW	c	III	3	3	3
簡略分級式					III t n e		II (W) f s																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は更正統一に属する。作土は風蝕を受けて一般に浅く1.5cm以下のところが多い。有効土層は1m以上で深い。表土は粗粒質の火山灰土からなり、粘着性弱く農具の使用は容易である。下層土は凝灰質物に由来し、中粒質もしくは粗粒質で、透水性は良好である。このため一時的に表土が乾燥し風蝕の被害を受けている。

作土は保肥力稍々小さく、磷酸固定力中庸で、塩基状態は中庸以下である。心土は保肥力中庸であるが一般に磷酸固定力が大きく、塩基状態も不良である。

養分は作土、心土共、石灰、苦土、磷酸、加里が少なく、瘠薄な土壤である。

特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

一部は中耕又は採草放牧地となっているが、大部分は耕地として利用され、大麦、えん麦、馬鈴薯大豆、菜豆、小豆、亜麻、ビート、牧草等の飼料作物が作付られている。

一般に粗放経営なので、収量は高くない。

C 地力保全上の問題点

本土壤区は本調査地区中風蝕の被害を最も大きく受けるところである。このため幹線防風林の整備強化は勿論のこと、耕地防風林の完備育成が必要であり、特に海岸線一帯は防風林をも含めた防風林の育成、保護が必要である。

風害による作土の飛散によって、一般に表土が薄く、甚だしいところは灰黄褐色の下層土が相当部分作土に混入され、低位生産の原因となっている。加えて作土は自然肥沃度の稍々低い粗粒質火山灰土であり、下層も地味清薄な凝灰質物からなっているため、堆肥、緑肥等有機物の施用、施肥の合理化、経営形態の転換による作付体系の再検討等によって、良好な作土の造成と地力の増進に努めることが望ましい。

このためには良好な牧草畑の造成、拡大。堆肥、緑肥等有機物を附加しながら漸次深耕して作土層の深化を図ること（この場合は急激な深耕を行なうと一時減収を招くおそれがあるので注意を要する）。この場合下層は磷酸固定力が大きく、苦土にも欠乏しているため熔成磷酸肥、苦土入磷酸肥料の施用が望ましい。なお、当地区調査時苦土欠乏症状を呈する作物が相当見られ、特に海岸地帯に向う程多い傾向にあった。

D 分布 広尾郡広尾町 下野塚、東紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

尾 張 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はSLである。腐植含量3.0%、色は10YRで、彩度2、明度2~3である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.2で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はCLである。腐植含量14.3%、色は10YRで、彩度2、明度1である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.6で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm内外で、土性はLである。腐植含量10.2%、色は10YRで、彩度4、明度3、礫なく、発達弱度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.6で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ25cm内外で、土性はSLである。腐植を欠き、色は7.5YRで、彩度8、明度5である。礫なく、発達中度の塊状構造あり、細孔含み、小孔あり、ち密度1.9で中である。下層との境界は漸変である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町 尾張 試抗№115

第1層	0~20cm	腐植あり黄褐灰(10YR 4/2)のSL、礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.2で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.7、層界明瞭。
第2層	20~30cm	腐植に富む黒(10YR 2/1)のCL、礫なく、発達中度の粒状構造細孔、小孔あり、ち密度1.6で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界判然。
第3層	30~45cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/4)のL、礫なく、発達弱度の粒状構造細孔、小孔あり、ち密度1.6で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、層界漸変。
第4層	45~70cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/8)のSL、礫なく、発達中度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、層界漸変。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0-20	2.2	57.6	22.7	17.0	2.7	SL	68.3	2.40	1.72	0.15	11
2	20-30	9.0	5.1	31.6	44.8	18.5	CL	46.5	2.35	8.25	0.56	15
3	30-45	10.4	7.6	50.4	34.6	7.4	L	47.8	2.39	5.93	0.46	13
4	45-70	6.4	20.1	53.9	16.9	9.1	SL	59.7	2.58	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	3.0	5.7	4.6	1.75	6.9	1.53	0.63	0.29	22.1	647	0.8
2	14.3	5.5	4.4	4.25	34.9	4.20	2.02	0.33	12.0	2,598	tr
3	10.2	5.6	4.6	2.00	28.2	0.93	0.94	0.32	3.2	2,730	tr
4	—	5.8	4.8	0.75	19.5	0.53	1.60	0.32	2.7	1,777	tr

### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては中紋別統、尾張南統、松山統があるが、尾張南統、松山統とは母材、堆積様式が異なり中紋別とは土壌の乾湿が異なるので区分された。

### A-3 母材

非固結火成岩

### A-4 堆積様式

風積

### B 地形

平坦～緩傾斜

### C 気候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温の低下の較差が大きくしばしば冷害をうける気象条件下にある。

### D 植生及び利用状況

大部分林地、放牧地として利用されている。耕地として利用されているところでは牧草、えん麦、ビート、馬鈴薯が作付けられている。収量は中庸である。

### E 農業上の留意事項

養分が少ないから塩基や堆肥の補給が大切である。また深耕する場合は下層の磷酸固定力が大きいから磷酸肥料の多施が必要である。風蝕のおそれも大きいから防風林の完備も必要である。

### F 分布 広尾郡広尾町尾張

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

## (2) 土壌統の細分

### ① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
尾張統一尾張区	IIIfn IIwse

### ② 土壌区別説明

尾 張 統 一 尾 張 区

示性分級式(畑)

土表	有表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵								
壤生	効土	土	表表	透保	固土	置	有微	有物	增地	自傾	人	侵耐					
産土	土	耘	土土	湿然	層の	換	酸	害理	冠す	然斜	為	水風					
力産	の層	のの	土の	水水	肥定	性性	量	害質	水りの	傾の	傾	蝕					
可層	のの	のの	土の	潤肥	塩の	苦加	要	障	害の	危	方	蝕					
能厚	深	含	土着	沃	基状	里酸	素	無	險	斜	斜	蝕					
性深	易	難	硬	度	力力	量	度	性	度	斜	蝕	蝕					
等厚	易	性	性	度	否	否	性	性	度	蝕	蝕	蝕					
級	量	性	性	度	否	否	性	性	度	蝕	蝕	蝕					
	t d g p		w	f	n		i	a	s	e							
Ⅲ	I I I I	1 1 1	II	1 2 2	III	3 1 3	III	3 2 2 3	— 2	I	1 1	I	1 1	II	2 — —	II	2 2 2
簡略分級式	Ⅲfn IIwse																

A 土壤区の特徴

この土壤区は尾張統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。土性は壤質で農具の使用に当って支障はない。透水性、保水力は中庸で過湿、過干のおそれはない。保肥力小、固定力小で自然肥沃度は不良である。石灰、燐酸少なく、苦土加里は中庸、酸度は中で養分は少ない。地形は3°~8°で風蝕のおそれがある。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分林地、放牧地として利用されている。耕地として利用されているところでは牧草、えん麦、ビート、馬鈴薯が作付けられている。収量は中庸である。

C、地力保全上の問題点

養分が少ないから塩基や堆肥の補給が大切である。また深耕する場合は下層土が燐酸固定力が大きいから燐酸肥料の多施が必要である。風蝕のおそれも大きいから防風林の完備も必要である。

D 分布 広尾郡広尾町尾張

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

中 紋 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さは21cm内外、土性はLである。腐植含量1.8%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度15で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外、土性はLiCである。腐植含量27.0%、色は10YRで、彩度1~2明度1~2である。発達弱度の細塊状構造あり、細孔あり、ち密度14~17で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.2、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はLである。腐植含量13.0%、色は10YRで、彩度4、明度3である。礫なく、発達中度の塊状構造あり、細孔、小孔、中孔あり、ち密度19で、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は漸変である。

第4層は60cm以下で、土性はSLである。腐植を欠き、色は2.5Yで、彩度4、明度5である。礫なく、発達中度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度20で中である。pH(H<sub>2</sub>O)5.6。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町中紋別 試坑 №152

第 1 層	0~21cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のL、礫なく、発達弱度の粒状構造、ち密度1.5で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界明瞭。
第 2 層	21~40cm	腐植に富む黒(10YR 1/1)のLiC、礫なく、発達弱度の粒状、塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度1.4~1.7で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、層界判然。
第 3 層	40~60cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/4)のL、礫なく、発達中程度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界漸変。
第 4 層	60cm~	腐植を欠く黄褐(2.5Y 5/4)のSL、礫なく、発達中程度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度2.0で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0-21	5.1	34.6	28.7	24.0	12.7	L	7.15	2.05	6.85	0.48	14
2	21-40	2.2	2.2	18.7	37.7	41.4	LiC	4.19	1.88	15.69	0.91	17
3	40-60	3.5	3.5	40.2	43.3	13.0	L	5.65	2.03	7.58	0.52	15
4	60-	7.8	7.8	58.1	25.2	8.9	SL	6.11	2.34	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	11.8	5.3	4.3	6.75	2.27	2.46	1.41	0.29	9.23	1,319	1.5
2	27.0	5.2	4.1	17.25	45.0	4.09	1.67	0.46	9.08	2,556	0.9
3	13.1	5.5	4.5	3.75	37.0	1.11	1.85	0.64	2.99	2,624	tr
4	-	5.6	4.8	1.25	20.8	0.36	0.54	0.48	1.72	2,207	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、松山統、紋別統、尾張南統、尾張統があるが、松山統、紋別統、尾張南統とは堆積様式が異なり、尾張統とは乾湿の差があるので本統と区分される。

A-3 母材

非固結火成岩

A-4 堆積様式

風積

B 地形

平坦

C 気候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温の低下の較差が大きくしばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、えん麦、ビート等が作付けられている。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

排水を呈するから暗渠、明渠排水が必要である。また酸性を呈するので酸性矯正を要す。心土の磷酸固定力が大きいから深耕時には磷酸の多肥が必要となる。

F 分布 広尾郡広尾町中紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中紋別統一中紋別区	IIIwfn IIae

② 土壌区別説明

紋 別 統 一 紋 別 区

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	有 効 土 層 の 厚 さ	表 土 層 の 容 積 率	耕 転 の 難 易	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 硬 さ	土 地 の 乾 燥 性	透 水 性	保 水 力	自 然 肥 沃 度	固 定 力	土 層 の 塩 基 状 態	分 換 性	置 換 性	石 灰 含 量	苦 土 量	有 機 質 量	微 酸 性	障 害 物 質 の 有 無	災 害 的 障 害 性	増 冠 水 の 危 険 度	地 面 の 傾 斜	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	侵 蝕 性	耐 蝕 性										
III	I	I	I	I	I	I	III	1	2	3	III	1	2	3	III	3	1	2	3	-	2	I	1	1	II	2	1	I	1	-	-	II	2	1	2
簡略分級式		IIIwfn IIae																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は中紋別統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1mで深い、土性は粘質であるが農具の使用にあたって支障はない透水性は中庸であるが保水力は大きく、地下水位が高いので過湿のおそれが多い。保肥力大、固定力小、自然肥沃度は不良である。石灰、磷酸は少なく、苦土は多い、酸度の中、養分の豊否は少ない。地形は平坦、増冠水を受ける危険性が多少ある。

B、植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、えん麦、ビート等が作付けられている。収量は中庸である。

C、地力保全上の問題点

排水不良であるから明渠、暗渠排水が必要である。また、酸性を呈するので酸性矯正を要する。心土の磷酸固定力が大きいから深耕時には磷酸肥料の多肥が必要である。

D 分布 広尾郡広尾町中紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

松 山 統

(1) 土壌統の概説



## A 土壤統の特徴

### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14~18cm、腐植含量6%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2~3、明度2~3である。礫は含まず、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度8~18で頗る疎~疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.7~6.1、下層との境界は直線明瞭である(火山灰層)。

第2層は厚さ5~10cmで、腐植含量7%内外、土性はSL~Lである。色は10YRで彩度1~3、明度1~3である。礫なく、発達弱度の粒状構造で、細小孔を含む、ち密度15~18で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.9前後。下層との境界は波状時々明瞭である。

第3層は厚さ15~25cmで、腐植含量3%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度4~6、明度3~5である。礫なく、発達弱度の細塊状構造を呈し、細小孔を含む。ち密度15~18で疎。pH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ10~15cmで、腐植含量は2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度4~8、明度4~6である。未風化細小円礫を含み、発達弱度の塊状構造を呈す。細小孔を含み、ち密度16~21で疎~中である。pH(H<sub>2</sub>O)6.1前後。下層との境界は不規則漸変である。

第5層は概ね45~50cm以下で、巨礫、大中小円礫を主体とする礫層である。

### 代表的断面型態

(所在地) 広尾郡大樹町字松山、試坑 №12

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐色(10YR 3/2)のSL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、ち密度13で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り乾、層界直線明瞭(火山灰層)。
第2層	18~23cm	腐植に富む黒褐色(10YR 3/2)のSL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細小孔を含む、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半乾、層界波状時々明瞭。
第3層	23~40cm	腐植を含む褐色(10YR 4/4)のL、礫なく、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.1、調査時の湿り半湿、層界波状漸変。
第4層	40~50cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR 6/4)のL、未風化細小円礫を含む。発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度21で、pH(H <sub>2</sub> O)6.1調査時の湿り湿、層界不規則漸変。
第5層	50cm~	未風化巨大中小円礫を主体とする礫層。

### 代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0-18	3.9	28.4	42.1	22.9	6.6	SL	77.9	2.59	3.65	0.25	15
2	18-23	4.3	27.5	43.4	23.8	5.3	SL	82.9	2.61	3.86	0.27	14
3	23-40	5.2	9.4	50.3	37.0	3.2	L	75.6	2.75	1.86	0.17	11
4	40-50	3.7	16.3	37.1	31.9	14.7	L	111.7	2.76	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.3	6.0	4.9	1.25	12.9	3.4	0.4	0.4	26.6	98.2	16.2
2	6.7	5.9	4.8	1.50	13.9	3.2	0.1	0.3	23.3	—	6.6
3	3.2	6.0	4.9	0.75	13.6	1.6	0.4	0.5	11.5	—	—
4	—	6.1	4.6	2.50	10.4	1.3	0.4	0.3	13.4	—	—

### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、松山東統、日方川統、芽武西統、萌和統、美成統等があるが、松山東統、日方川統、芽武西統は下層が沖積のため堆積様式が異なるので本統と区別され、萌和統は堆積様式、腐植層序が本統と異なる。美成統は下層が凝灰質物からなり、美成統とは礫層の有無により夫々区別される。

### A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

### A-4 堆積様式 風積(火山性)/洪積世堆積

### B 地形

標高30~60mの略々平坦な段丘性台地

### C 気候

春夏海霧の影響を被り、夏季は冷涼である。秋季は比較的好天となるが、同時に気温が低し、農業上不利な気象条件下にある。

### D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、菜豆、小豆、馬鈴薯、ビート、亜麻、牧草等が栽培されている。収量は稍々中庸が低位である。

### E 農業上の留意事項

現在耕地防風林の設置により、風害はかなり軽減されているが、一部耕地防風林の不完全なところがあるので、その整備が必要である。

以前の風蝕により表土の浅いところがあり、又、一般に作土はあまり深くなく、有機物が稍々不足しているので、堆肥、緑肥等有機物の施用を行ないつつ漸次深耕して作土層の深化を計り、地力増進に努めることが望ましい。

### F 分布 広尾郡広尾町豊似、野塚

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

## (2) 土壌区の細分

### ① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
松 山 統 一 松 山 区	III d f n e II t

### ② 土壌区別説明

松 山 統 一 松 山 区

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	耕起の難易	表土の風乾土の硬さ	表土の粘着性	土の透水性	自然保湿度	自保肥力	固定力	養分塩基状態	養分置換性	置換性石灰含量	置換性苦土含量	有効態加里含量	酸態加里含量	化学的障害性	物理的障害性	傾斜の方向	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕度	耐風性	耐水性	
Ⅳ	t	d	g	p		w			f		n					i		s				e			
Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	—	—	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ
簡略分級式					Ⅲdfne Ⅱt																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は松山統に属する。作土の厚さは12~18cmで中庸もしくは少々浅く、有効土層は50cm以下で浅い。

表土は主として粗粒質の火山灰からなり、粘着性弱く、農具の使用は容易である。下層は砂岩質風化物で粗粒質乃至中粒質を呈し、地表下50cm以下の最下層は礫層となつているため気水の透過は良好である。一部に地表近く巨~大円礫が散在し、耕起の際支障を来すことがある。

保肥力、固定力共に中庸であるが、一般に石灰飽和度低く、土層の塩基状態は不良である。

石灰、燐酸、苦土、加里等の養分含量が低く、本地区調査時農作物に苦土欠乏症状が多く見られ、特に苦土の不足が目立っている。

特殊の障害性はないが、部分的に地表近く巨~大円礫が散在し、耕起の際障害を受けることがある。

B 植生及び利用状況

大部分が耕地として利用され、大豆、菜豆、小豆、馬鈴薯、亜麻、ビート、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

風蝕により作土の一部が飛散し、一般に表土が浅く、有機物も少々不足している。又一般に養分含量も低い。

堆厩肥、緑肥等の有機物を施用し、漸次深耕して作土層を深めることなど作土の地力を増進する方向へ持つて行くことが望ましく、更に苦土、加里の増施を中心とした施肥の合理化が必要と思われる。

尚、漸次深耕して行く場合、下層土は特に養分含量が低いので、施肥量を若干増量して行くことが望ましい。

防風林の整備不十分なところは早急に完備が必要である。

D 分布 広尾郡広尾町豊似、野塚

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

紋 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~20cm、腐植含量6.6%内外、土性はSL、色は10YRで彩度2、明度2、

礫なく、構造は単粒構造である。ち密度10~16で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、下層との層界は波状漸変である。有珠山火山灰b層を主体とした層である。

第2層は厚さ15~20cm、腐植含量1.7%内外、土性はCLである。色は10YRで彩度4、明度4である。礫なく発達弱度の粒状構造、塊状構造呈す。細孔あり、ち密度13~17で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との層界は不規則漸変である。

第3層は厚さ15~40cmで腐植を欠き、土性はCLである。色は7.5YRで彩度6、明度5である。礫なく、発達中程度の塊状構造呈す。細孔あり、ち密度16~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との層界は不規則漸変である。

第4層は腐植を欠き、土性はLiCである。色は7.5YRで彩度6、明度5である。礫なく、発達弱度の塊状構造を呈す。ち密度22で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町豊似 試坑 №35

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のSL、礫なく、無構造、ち密度16で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半乾、下層との層界は波状漸変である。
第2層	20~40cm	腐植あり、褐(10YR 4/4)のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造細孔あり、ち密度15で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界不規則漸変である。
第3層	40~55cm	腐植を欠き明褐(7.5YR 5/6)のCL、礫なく、発達中程度の塊状構造、ち密度17で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界規則漸変である。
第4層	55cm~	腐植を欠き明褐(7.5YR 5/6)のLiC、礫なく、発達弱度の塊状構造、ち密度22で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿りは半乾である。

#### 代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~20	3.2	37.0	34.4	21.0	7.6	SL	90.1	1.90	3.95	0.29	14
2	20~40	9.1	4.3	34.7	44.6	16.4	CL	65.6	1.94	7.49	0.55	14
3	40~55	6.9	5.2	53.3	26.3	15.2	CL	62.3	2.40	—	—	—
4	55~	5.7	2.9	51.4	4.4	41.2	LiC	—	—	—	—	—

層位	腐 植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.59	5.6	4.6	2.25	16.8	5.2	1.0	0.2	31.1	998	12.3
2	11.74	5.5	4.5	4.75	35.7	2.9	0.3	0.5	8.2	2,683	2.0
3	—	5.5	4.5	4.75	24.4	1.3	0.3	0.3	5.3	2,293	—
4	—	5.3	4.3	12.50	17.6	2.5	2.8	0.4	14.4	1,642	—

#### A-2 他の土壌との関係

本統に隣接する統としては香福統、紋別西統があるが、香福統とは礫層の出現位置により、また紋

別西統とは成因、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材

非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪積世堆積

B 地形

標高90～120cm、1°～3°のほぼ平坦な台地。

C 気候

夏季に海霧があり一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温の低下と較差が大きくしばしば冷害をうける気象条件下にある。

D、植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、デントコン、牧草等が作付けられている。

E 農業上の留意事項

風蝕のおそれがあるので防風林が必要で現在まだ未整備のところがあ、その完備が必要である。地力を保つために堆厩肥を増肥し、深耕につとめるべきである。

F 分布 広尾郡広尾町

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
紋別統一紋別区	IIIe IIfn

② 土壌区別説明

紋 別 統 一 紋 別 区

示性分級式（畑）

土表有効土層の厚さ	表土の転層の深さ	表土の粘着性	表土の風乾の硬さ	土の乾燥性	透水性	自保湿度	自然肥沃度	固肥力	養分塩基状態	置換性石灰含量	置換性苦土含量	有効態加里含量	酸態磷酸含量	障害性	物理的障害性	化学的障害性	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵入傾斜	侵蝕	耐蝕性	耐風蝕性	耐水蝕性			
t	d	g	p	w	f	n	i	s	e																		
II	I	I	I	2	1	1	I	1	2	1	2	2	3	1	2	I	1	1	I	1	—	—	III	3	1	3	
簡略分級式				IIIe				IIfn																			

A、土壌区の特徴

この土壌区は紋別統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。表土下層共に礫存在せず、表層、下層共壤質で農具の使用に当つてはわずかの抵抗を感じる。透水性は中

庸で過湿、過干のおそれはない。保肥力中、作土の磷酸固定力は少ないが下層は強大である。塩基状態は中庸、養肥分は石灰、苦土は中庸、加里は少ないが、磷酸含量は高い。地形は略平坦であるが、風蝕のおそれが多い。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

大部分が耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、デントコン、ビート、牧草、えん麦等が作付けられている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

地力が減退しているので堆肥の補給が必要である。また風蝕のおそれが多いので、防風林の整備や牧草等を導入するなど、作付方策を考えに入れ軽減すべきである。

D 分布 広尾郡広尾郡 紋別、野塚

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

香 福 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~20cm、腐植含量6.2%内外、土性はL、色は10YRで彩度2、明度2、小円半角礫あり、小孔含む。ち密度15~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.7前後、下層との層界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10~30cm、腐植含量8.8%内外、土性はLである。色は10YRで彩度4、明度3、小、中円半角礫含み、小孔あり、構造は無い。ち密度15~17で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との層界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~20cm、腐植を欠き、土性はSLである。色は7.5YRで彩度6、明度5、小中円、半角礫に富む、発達弱度の細塊状構造、pH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層との層界は不規則明瞭である。

第4層は礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町香福 №27

第1層	0~15cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のL、礫あり、無構造、ち密度15で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り半乾、下層との層界は直線明瞭である。
第2層	15~25cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/4)のL、礫含み、無構造、ち密度17で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、下層との層界は波状漸変である。
第3層	25~48cm	腐植を欠き明褐(7.5YR 5/6)のL、礫に富む、発達弱度の細塊状構造、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、下層との層界不規則明瞭である。
第4層	47cm~	礫層である。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積容 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	4.9	24.5	33.9	28.0	13.5	L	79.9	2.16	3.79	0.35	11
2	15~25	6.2	10.8	33.9	39.6	9.7	L	—	—	5.44	0.36	15
3	25~48	3.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

層位	腐 植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.20	5.7	4.7	1.75	17.3	3.9	1.1	1.0	22.6	1,563	7.3
2	8.79	5.2	4.4	4.00	22.9	1.2	0.5	1.7	5.3	2,179	1.4
3	—	5.4	4.4	4.75	11.7	0.7	0.4	5.6	5.6	1,340	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、紋別統、野塚統、香福南統、中豊似統、中樂古統がある。野塚統、香福南統、中豊似統、中樂古統とは成因、堆積様式が異なり、紋別統とは礫層の出現位置が異なることから本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)／洪積世堆積

B 地 形

標高60~110mで平坦。

C 気 候

夏海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好大に恵まれるが同時に気温が低下し、かつ較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D、植生及び利用状況

一部礫の多いところが放牧地となつているが、大部分は耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、ビート、牧草、えん麦、デントコン等が作付けされている。収量は中庸である。

E、農業上の留意事項

風蝕のおそれがあるので、防風林の整備されていないところは、早急にその完備が必要である。地力を保つために堆厩肥を増肥し、深耕につとめるべきである。礫層が近く表層に礫が現出している場合は除礫が必要である。

F 分 布 広尾郡広尾町 香福

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
香福統一香福区	IIIne IIgpfwi

② 土壌区別説明

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕土の難易	(表土の風乾土の硬さ)	(表土の粘着性)	土の透水性	(土の湿度)	自然保湿度	自保肥力	(固肥力)	(土層の塩基状態)	(置換性石灰含量)	(置換性苦土含量)	(有効態加里含量)	(有効態磷酸含量)	障害性	化学的障害性	(物理的障害性)	傾斜	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(人為傾斜)	(耐蝕性)	(耐風蝕性)						
Ⅳ	t	d	g	p	w				f			n					i		s				e								
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	3	2	2	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ	2	3	Ⅲ	2	2	3	3	2	Ⅱ	1	2	Ⅰ	1	—	—	Ⅲ	3	1	3
	簡略分級式				Ⅲne Ⅱdgpwfi																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は香福統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は40~60cmである。表層から礫出現し、40~60cmから礫層となつている。壤質であることと表層から礫出ることから農具の使用に当つては、かなりの抵抗がある。過湿、過干のおそれは少ない。保肥力中、磷酸固定力は作土は中庸であるが、心土の固定力は強大である。塩基状態は不良、養肥分は石灰、苦土は中庸であるが加里、磷酸含量は少ない。地形は平坦で水蝕のおそれはないが、風蝕のおそれが多い。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

一部礫の多い部分だけ放牧地となつているが大部分耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、ビート、牧草、えん麦、デントコン等が作付されている。収量は中庸である。

C、地力保全上の問題点

礫の表層に多いところは除礫の必要がある。地力が減退しているので、堆肥の補給が必要である。また風蝕のおそれが多いので、軽減するために、防風林の完備や牧草の導入などによる作付方策を考へる必要がある。

D 分布 広尾郡広尾町 豊似

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

広 尾 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はCLである。腐植含量11.9%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造、孔隙なし、ち密度1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ8cm内外、土性はCLである。腐植含量15.1%、色は10YRで、彩度1、明度2である。半風化小角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ23cm内外、土性はLである。腐植含量7.5%、色は10YRで彩度4、明度3である。半風化小中角礫含む、発達程度弱~中の粒状構造、弱度の細塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち



密度1.5で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.4、下層との境界は漸変である。

第4層は4.6cm以下で、土性はSCLである。腐植を欠き、色は1.0YRで彩度4、明度6である。小中の角礫含む、発達程度弱度の塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度2.4で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町西野塚 試坑No.137

第1層	0~15cm	腐植に富む黒褐(1.0YR 2/2)のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、層界判然
第2層	15~23cm	腐植に富む黒(1.0YR 2/1)のCL、小角礫あり、発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度1.7で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界判然
第3層	23~46cm	腐植を含む暗褐(1.0YR 3/4)のL、小中角礫含む、発達弱度の粒状構造、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度1.5で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、層界漸変。
第4層	4.6cm~	腐植を欠く灰黄橙(1.0YR 6/4)のSCL、小中角礫含む、発達弱度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度2.4で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0-15	5.8	23.4	27.2	30.5	18.9	CL	65.2	2.07	6.88	0.49	14
2	15-23	9.3	4.3	31.4	42.3	22.0	CL	58.4	2.25	8.78	0.49	18
3	23-46	3.8	3.8	52.9	29.8	13.5	L	70.9	2.46	4.36	0.34	13
4	46-	7.3	7.3	57.0	19.2	16.5	SCL	123.6	2.65	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	11.9	5.6	4.4	2.75	27.8	8.50	1.06	0.44	30.5	1.312	3.4
2	15.1	5.5	4.3	8.50	37.2	2.40	1.10	0.41	6.4	2.274	tr
3	7.5	5.4	4.4	6.75	27.6	0.73	0.90	0.51	2.6	2.400	tr
4	-	5.4	4.3	10.00	13.8	1.22	1.21	0.46	8.8	1.211	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統と隣接する統としては松山統、中楽古統がある。松山統とは礫層の出現位置が異なり、中楽古統とは母材が異なるのでそれぞれ本統と区分される。

A-3 母材

非固結火成岩/非固結水成岩(河成沖積)

A-4 堆積様式

風積/水積

B、地形

平坦

C、気候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温の低下の較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

一部林地、放牧地として利用されている。耕地は主として馬鈴薯、牧草、えん麦等が作付けられている。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

表層から礫出ているところは除礫が必要である。塩基の状態が悪いので、石灰、堆厩肥を多施する必要がある。また深耕時には心土が磷酸固定力が大きいから磷酸肥料の多施が必要である。

E 分布 広尾郡広尾町 西野塚、広尾

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
広尾統一広尾区	IIgpwfne

② 土壌区別説明

広 尾 統 一 広 尾 区

示性分級式(畑)

土表有効土層の厚さ	表土の礫含量	耕土の粘着性	表土の乾燥性	土壌の透水性	自然肥沃度	保肥力	土層の塩基状態	置換性	微酸量	酸度	物理的障害	増冠水の危険度	傾斜	自傾	人為的傾斜	侵蝕	耐蝕性							
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e														
II	I	I	II	II	2	2	2	II	1	2	2	II	1	2	I	1	1	I	1	1	II	2	1	2
簡略分級式		IIgpwfne																						

A 土壌区の特徴

この土壌区は広尾統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層も1m以上で深い。土性は粘質で農具の使用にあたってはわずかに抵抗を感じる。透水性、保水性は中庸である。保肥力大、固定力小、自然肥沃度は中庸である。石灰、加里多、磷酸、苦土中、酸度は強い、養分の豊否は中庸である。除去や困難な物理的障害がある。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

一部林地、放牧地として利用されている。耕地は主として馬鈴薯、えん麦等が作付けられている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

表層から礫出ているところは除礫が必要である。塩基の状態が悪いので、石灰、堆厩肥を多施する必要がある。

D 分布

広尾郡広尾町 広尾、西野塚

昭和41年3月31日

中 楽 古 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~20cm、腐植含量10.1%内外、土性はCLである。色は10YRで彩度2、明度2で、小中角礫含む、発達弱度の粒状構造、細孔あり、ち密度11~23で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.0前後、下層との層界は波状漸変である。

第2層は厚さ10~15cm、腐植含量3.9%内外、土性はLiCである。色は10YRで彩度4、明度5で小中角礫含む。発達中度の塊状構造、細小孔あり、ち密度16~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3前後。下層との層界は直線明瞭である。

第3層は厚さ15~20cm、腐植含量6.1%内外、土性はLiCである。色は10YRで彩度3、明度2、小中角礫含む。発達中度の粒状構造、細孔あり、ち密度16~21で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層との層界は不規則明瞭である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町楽古 試坑 No.91

第1層	0~14cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のCL、小中角礫あり、発達中度の粒状構造、細孔あり、ち密度23でやや密、pH(H <sub>2</sub> O)5.0、調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第2層	14~24cm	腐植あり、灰黄褐(10YR 5/4)のLiC、小中角礫含む、発達中度の塊状構造、細小孔あり、ち密度17で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り半乾、層界直線明瞭。
第3層	24~50cm	腐植含む灰黄褐(10YR 2/3)のLiC、小中角礫に富む、発達弱度の粒状構造、細孔あり、ち密度21で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、層界不規則明瞭。
第4層	50cm~	礫層

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~14	4.6	23.9	30.3	26.1	19.7	CL	97.6	2.18	6.15	0.43	14
2	14~24	4.5	6.4	26.6	37.9	29.1	LiC	—	—	2.36	0.18	12
3	24~50	4.8	2.8	19.8	41.0	35.4	LiC	90.6	2.37	3.72	0.26	14
4	50~	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態リン酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	10.12	5.0	4.0	12.75	25.5	5.1	1.2	0.8	20.0	1.013	10.5
2	3.88	5.3	4.1	15.25	19.2	3.5	1.3	0.5	18.4	1.249	2.5
3	6.10	5.4	4.1	13.00	23.1	3.9	0.9	0.4	17.0	1.432	—
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては香福南統、楽古統、中豊似統、紋別西統があるが、香福南統、楽古統、中豊似統とは成因、堆積様式が異なり、紋別西統とは地下水の高低が異なることから本統と区分される。

### A-3 母材

非固結火成岩／非固結水成岩

### A-4 堆積様式

風積（火山性）／崩積

### B 地形

標高70～120m。3°～8°の緩傾斜地

### C 気候

夏季に海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、かつ較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

### D 植生及び利用状況

一部林地や放牧地となつているが、大部分は耕地として利用され、主に牧草、えん麦、デントコン等の飼料作物が作付けられている。

### E 農業上の留意事項

表層から礫が出現しているので、先ず除礫が必要である。強酸性で塩基の状態も不良であるから、堆厩肥と石灰の補給が大切である。

### F 分布 広尾郡広尾町楽古

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

## (2) 土壌統の細分

### ① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中 楽 古 統 - 中 楽 古 区	III d II p w f n i s e

### ② 土壌区別説明

中 楽 古 統 - 中 楽 古 区

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕土の難易	(表土の風乾土の粘性)	(表土の粘着性)	土の乾燥性	透水水性	保湿潤度	自然肥力	(保肥力)	(固肥力)	土層の塩基状態	(置換性石灰含量)	(置換性苦土含量)	(置換性加里含量)	有効態磷酸含量	酸害度	化学的障害性	(物理的障害性)	傾斜	(自然斜)	(人為斜)	侵蝕度	(耐風蝕性)	(耐水蝕性)			
III	I	III	II	II	3	2	II	2	2	2	2	2	II	2	1	1	1	2	II	1	2	II	2	WE	II	2	2	1
簡略分級式		III d II p w f n i s e																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は中稜古統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は19~50cmで浅い。土性は壤質であるが、礫のあることなどで農具の使用に当つてはかなりの抵抗を感じる。過干、過湿の心配は少ない。保肥力大、磷酸固定力中は、塩基の状態は不良である。養肥分は石灰含量は中庸であるが、苦土、加里、磷酸含量は多い。3°~8°の緩傾斜を有するが、水蝕の心配は少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

一部林地や放牧地となつているが、大部分は耕地として利用され、牧草、えん麦等の飼料作物が作付けられている。収量はあまり高くない。

C 地力保全上の問題点

表層から礫が存在し除礫が必要、酸性強く、塩基の状態も不良であるから、相当量の石灰と堆厩肥を補給すべきである。

D 分布 広尾郡広尾町中稜古、野塚

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

紋 別 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm、腐植含量5.8%内外、土性はLである。色は10YRで彩度2、明度2、半風化の小中角礫含む。無構造で、細孔あり、ち密度10~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との層界は直線明瞭である。

第2層は厚さ15~25cm、腐植含量3.1%内外、土性はCLである。色は7.5YRで彩度2、明度4、礫なく、細小孔含む、ち密度13~16で中、膜状、斑状の酸化沈積物含む、pH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層との層界は波状漸変である。

第3層は厚さ17~20cm、腐植含量2.6%内外、土性はCLである。色は10YRで彩度2、明度4、小中角礫に富む、細小孔あり、弱グライを呈するか、膜状、斑状の酸化沈積物を含む、pH(H<sub>2</sub>O)5.4前後、下層との層界は不規則明瞭である。

代表的断面形態

第 1 層	0~15cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/2)のL、半風化の小中角礫含む、細孔あり、無構造、ち密度20で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界直線明瞭。
第 2 層	15~40cm	腐植あり、黄褐灰(10YR 4/2)のCL、礫なく、発達弱度の細塊状、粒状構造、ち密度16で中、脈状、斑状の酸化沈積物含む、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿めり半乾、層界波状漸変。
第 3 層	40~57cm	腐植あり、黄褐灰(10YR 4/2)のCL、半風化の小中角礫に富む、細孔含む、弱グライを呈し、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り湿、層界不規則明瞭。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	3.3	30.2	32.8	22.4	14.5	L	91.6	2.33	3.45	0.29	12
2	15~40	4.3	4.9	44.9	25.8	24.4	CL	102.9	2.47	1.90	0.20	10
3	40~57	4.2	14.9	44.6	21.7	18.8	CL	--	--	1.60	0.16	10

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.75	5.5	4.3	3.00	17.2	8.0	1.3	0.2	44.6	7.38	14.9
2	3.14	5.4	4.0	11.75	22.5	10.3	1.9	0.4	45.9	1.086	2.6
3	2.63	5.4	4.0	10.50	21.0	8.2	2.7	0.3	39.1	1.040	--

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、中樂古統、中豊似統、紋別統があるが中豊似統、紋別統とは成因、堆積様式が異なり、中樂古統とは地下水の高低が異なるから本統と区分される。

A-3 母 材

非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式

風移(火山性)/崩積

B 地 形

標高130m前後で3°~8°の緩傾斜地。

C 気 候

夏季に海霧があるので一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、かつ較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、ビート、馬鈴薯等が一部作付けられているが、殆んどは牧草、えん麦等の飼料作物で占めている。

E 農業上の留意事項

排水不良地であるから排水工事が必要である。腐植含量、保肥力が少ないので、塩基と堆肥の補給が必要である。酸性も強いから、相当量の石灰を施用する必要がある。

F 分布 広尾郡広尾町紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
紋別西統一紋別西区	III dw II gpfnise

② 土壌区別説明

紋別西統一紋別西区

示性分級式(畑)

土壌生産力の可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	耕土の難易	表土の風乾の速さ	土壌の乾燥性	透水性	保湿度	自然肥沃度	固肥力	土層の塩基状態	養分豊富	置換性石灰含量	置換性苦土含量	置換性加里含量	有効態磷酸含量	酸化障害性	化学的障害性	物理的障害性	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕度	耐蝕性	耐風蝕性								
III	I	III	II	II	2	2	1	III	2	2	3	II	2	2	2	II	1	1	2	1	2	II	1	2	II	2	NS	-	II	2	2	1
簡略分級式					III dw II gpfnise																											

A 土壌区の特徴

この土壌区は紋別西統に属する。表土の厚さは2.5cm内外で深い。有効土層は3.5~4.0cmでやや浅い。土性は壤質であるが、表土から礫が存在し、そのため農具の使用に当つては、かなりの抵抗がある。過湿のおそれが多い。保肥力中、磷酸固定力は作土、心土共に中庸である。塩基の状態も中庸である。養分は石灰、苦土、磷酸含量は多いが、加里含量は中庸である。3°~8°の緩傾斜があり水蝕のおそれがある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、ビート、馬鈴薯、牧草、えん麦等が作付けられている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

排水不良地であるから、先ず排水工事が必要である。腐植含量、保肥力が少ないので塩基と堆厩肥の増施が必要である。酸性もやや強いので、石灰の施用も必要である。

D 分布 広尾郡広尾町紋別

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

西 野 塚 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22cm内外、土性はLiCである。腐植含量7.9%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく、発達強度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度17で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ23cm内外、土性はLiCである。腐植含量5.7%、色は10YRで彩度2、明度3である。礫なく、発達中度の粒状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度21で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界は不規則明瞭である。

第3層は45cm以下で円礫層である。色は10YRで彩度1、明度2である。発達弱～中度の細塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度20で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町西野塚 試坑No.139

第1層	0~22cm	腐植を含む黒褐(10YR <sup>2/2</sup> )のLiC、礫なく、発達強度の粒状構造、細孔、小孔あり、ち密度17で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界判然。
第2層	22~45cm	腐植を含む黒褐(10YR <sup>3/2</sup> )のLiC、礫なく、発達中度の粒状構造、細孔、小孔あり、ち密度21で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、層界不規則明瞭。
第3層	45cm~	腐植を含む黒(10YR <sup>2/1</sup> )、円礫層である。発達中度の細塊状構造、細孔、小孔あり。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 $\gamma$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~22	4.6	11.0	27.0	33.0	29.0	LiC	76.5	2.41	4.57	0.35	13
2	22~45	5.1	4.0	27.4	42.0	26.6	LiC	89.7	2.71	3.33	0.25	13

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	7.9	5.3	4.1	14.75	25.5	5.06	1.23	0.39	19.7	1.068	2.7
2	5.7	5.3	4.1	22.25	22.0	2.38	1.05	0.36	10.8	1.370	0.4

A-2 他の土壤統との関係

本統と隣接する統としては松山統があるが表層土は共に有珠火山灰土と同じであるが下層土が松山統が洪積世堆積であるが本統は沖積世堆積物であるので区分される。

A-3 母材

非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積/水積(河成沖積)

B 地形

平坦



C 気 候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的 好天に恵まれるが、同時に気温の低下の較差が大きくしばしば冷害を受ける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、小豆、牧草、ビート、馬鈴薯等が作付けられ、収量はやゝ高い。

E 農業上の留意事項

酸性を呈するので炭カル、その他の塩基を加える必要がある。また有機物を施用しつつ漸次深耕を行なう必要がある。

F 分 布 広尾郡広尾町 西野塚

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西野塚統一西野塚区	III d II p w f n i

② 土壤区別説明

西野塚統一西野塚区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵			
壤生土力可能性等	効土の層の厚深	表表土のの粘着性	透保濕然	保固土層の塩基沃	置換の性苦土量	有微酸" " " "素度	有物害的障有害無	增地冠す水の危険度	自傾人然の傾方	侵耐水風蝕蝕度性性
級さ	量易	濕	度	否	性	性	斜	蝕		
t d g p	w	f	n	i	a	s	e			
III I III I II 3 2 2	II 2 2 2	II 1 2 3	II 2 1 1 2	- 2 II 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 - -	I 1 1 2		
簡略分級式		III d II p w f n i								

A 土壤区の特徴

この土壤区は西野塚統に属する。表土の厚さは25cm内外で深い。有効土層は20~50cmで浅い。土性は強粘質で農具の使用に当つてかなりの抵抗がある。透水性、保水性は中庸、保肥力大、固定力小で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土、磷酸は中、加里は多く、酸度は中で養分は中庸である。除去やゝ困難な物理的障害物がある。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、小豆、牧草、ビート等が作付され、収量はやゝ高い。

C 農業上の留意事項

酸性を呈するので炭カル、その他の塩基を加える必要がある。また有機物を施用しつつ漸次深耕を行なう必要がある。

D 分布 広尾郡広尾町西野塚

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

香 福 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16~18cmで腐植含量7.0%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2、明度2、小中円、半礫含む、構造は無構造、ち密度1.1~1.2で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、層界は直線明瞭である。

第2層は厚さ20~30cm、腐植含量6.3%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度4、明度3、小中大の円、角礫に富む。発達弱度の細粒構造、ち密度2.0~2.3で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、層界は不規則明瞭である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町楽古 試坑No.20

第1層	0~16cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/2)のSL、小中円角礫含む、無構造、細孔あり、ち密度1.2で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、下層との層界は直線明瞭。
第2層	16~50cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のSL、大中小円角礫に富む、発達弱度の粒状構造、細孔含む、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半乾、層界不規則明瞭。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~16	2.8	36.1	38.5	19.9	5.4	SL	—	—	4.20	0.28	15
2	16~50	5.3	35.2	37.9	20.6	6.3	SL	—	—	3.85	0.25	15

層位	腐 植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	7.03	5.5	4.4	3.50	14.3	2.7	0.6	0.4	18.9	9.06	8.0
2	6.29	5.6	4.5	3.25	17.2	0.4	0.5	0.2	2.3	1.809	2.5

A-2 他の土壌統との関係

本統と隣接する統としては野塚統、香福統、中豊似統、中樂古統があるが、香福統、中樂古統とは成因、堆積様式が異なり、野塚統、中豊似統とは礫層の有無により本統と区分される。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成堆積)

B 地形

標高70～130mで平坦。

C 気候

夏季に海霧があり、一般に涼涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、かつ較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分が林地、放牧地として利用されて、耕地として利用されている面積は少ない。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

礫層が浅く、表層から礫の出現するが多いので除礫が必要である。地力はやゝ劣るので、塩基と堆肥の補給が必要である。

F 分布 広尾郡広尾町 楽古、香福

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
香福南統一香福南区	III d II t g f n e

② 土壌区別説明

香福南統一香福南区

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 層 厚 さ	有 効 土 層 含 量	表 土 層 粘 着 性	耕 土 層 粘 着 性	表 土 層 粘 着 性	表 土 層 粘 着 性	表 土 層 粘 着 性	土 地 乾 湿	透 水 性	自 然 潤 度	保 肥 力	保 固 力	土 層 粘 着 性	養 分 分 布	置 換 性 石 灰 含 量	置 換 性 苦 土 含 量	置 換 性 加 里 含 量	有 効 態 磷 酸 含 量	酸 害 度	障 害 性	化 学 的 障 害 性	物 理 的 障 害 性	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性					
III	t	d	g	p	2	1	1	w	I	1	2	1	II	2	1	3	II	3	2	1	2	2	II	1	2	I	1	—	—	e	II	1	2	1
簡略分級式		III d II t g f n e																																

A 土壌区の特徴

この土壌区は香福南統に属する。表土の厚さは20cm内外で、有効土層は25～50cmでやゝ浅い。土性が壤質であるが表土から礫が現出するため、農具の使用にはかなりの抵抗がある。一時的に過湿のおそれがある。保肥力中、磷酸固定力小、塩基の状態は不良である。養分分は石灰は少ないが加里は多く、苦土、磷酸含量は中庸である。多雨や融雪時に一時的に増水し、水蝕のおれがある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

大部分林地、放牧地として利用され、耕地となつては少ない。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

礫層が浅く表層から礫が現出している。除礫の必要がある。地力もやや劣るので、塩基の補給と堆厩肥の増量が必要である。

D 分布 広尾郡広尾町香福

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

中 豊 似 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~22cm、腐植含量8.6%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2、明度2、小円礫あり、発達弱度の粒状構造、ち密度12~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8前後、下層との層界は直線明瞭である。

第2層は厚さ7~20cm、腐植含量13.6%内外、土性はLiCが主である。色は7.5YR、彩度1、明度2、小円礫あり、発達中度の粒状構造を呈し、小孔あり、ち密度14~19で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との層界は波状漸変である。

第3層は厚さ9~20cm、腐植含量11.4%内外、土性はCLである。色は7.5YRで彩度2、明度2、小円礫あり、発達中度の塊状構造呈し、細小孔あり、ち密度15~20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.2前後、下層との層界は波状漸変である。

第4層は腐植を欠き、土性はLである。色は10YRで彩度4、明度4~5で、小円礫を含む。発達弱度の細塊状構造を呈し、小孔あり、ち密度15~22で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3前後、下層との層界は不規則明瞭である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町中豊似 試坑№59

第1層	0~22cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/2)のSL、小円礫あり、発達弱度の粒状構造、ち密度14で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り乾、下層との層界直線明瞭
第2層	22~32cm	腐植に富み黒(7.5YR 2/1)のLiC、小円礫あり、発達中度の粒状構造、小孔あり、ち密度16で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	32~43cm	腐植を含み黒褐(7.5YR 2/2)のCL、小円礫あり、発達中度の細塊状構造、ち密度15で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第4層	43~68cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR 5/4)のL、小円礫含み、発達弱度の塊状構造、ち密度19で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り半乾、層界は不規則明瞭である。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 $\rho$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~22	3.6	36.5	32.0	22.9	6.8	SL	64.9	2.11	5.17	0.34	15
2	22~32	8.9	3.7	24.3	38.1	33.9	LiC	65.3	1.96	8.67	0.74	12
3	32~43	10.3	3.3	33.8	19.8	19.8	CL	55.9	2.07	7.17	0.60	12
4	43~64	6.4	4.5	58.4	6.8	6.8	L	69.3	2.65	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 $Y_1$	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 $mg/100g$
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	8.60	5.8	4.6	1.50	14.5	4.5	1.4	2.2	30.9	788	3.5
2	13.62	5.2	4.2	7.75	50.3	8.6	1.5	3.9	17.1	2,368	2.0
3	11.40	5.2	4.4	6.25	40.7	1.7	0.7	2.3	4.1	2,789	—
4	—	5.3	4.7	2.00	17.5	0.3	0.3	0.6	1.5	2,208	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、中楽古統、香福南統、楽古統、紋別統、香福統がある。紋別統、香福統、中楽古統とは成因、堆積様式が異なり、香福南統、楽古統とは礫層の出現の有無が異なる事から本統と区分される。

A-3 母材

非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積(火山性)／水積(河成堆積)

B 地形

標高100~120m、1°~3°の緩傾斜地

C 気候

夏季に海霧があり、一般に冷涼である。秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、かつ較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

一部放牧地となつていところもあるが、その他の大部分は耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、ビート、牧草、えん麦等が作付けされている。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

心土の酸性と磷酸の固定力が大きい。今後、大型農具が導入され深耕される場合は酸性矯正と磷酸の増施、また堆厩肥の施用と合わせて行なうべきである。

F 分布 広尾郡広尾町 豊似

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中豊似統一中豊似区	Ifnie

② 土壤区別説明

中豊似統一中豊似区

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の礫含量	耕転の難易	(表土の粘性)	(表土の乾土の硬さ)	(表土の風乾土の硬さ)	(土の乾燥性)	(透水性)	(保水性)	(湿度)	(自然肥沃度)	(保肥力)	(固定力)	(養分塩基状態)	(養分豊富)	(置換性石灰含量)	(置換性苦土含量)	(置換性加里含量)	(有効態磷酸含量)	(酸害度)	(化学的障害性)	(物理的障害性)	(傾斜)	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵入)	(耐蝕性)	(耐風蝕性)			
II	I	I	II	I	2	1	1	I	1	2	1	II	2	1	2	II	2	1	1	2	2	II	1	2	I	1	—	—	II	2	1	?
簡略分級式				Ifnie																												

A 土壤区の特徴

この土壤区は中豊似統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は1m以上で深い。作土、心土共少量の礫が存在している。壤質であるのと少量の礫の存在することから、農具使用にかなりの抵抗がある。保肥力中、磷酸固定力は作土は小さいが、心土は強大である。塩基状態は中庸である。養分分は石灰含量は中、苦土、加里含量は多い。磷酸含量は中庸である。地形は平坦であるが、風蝕の心配はある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

一部放牧地となつているところもあるが、大部分は耕地として利用され、大豆、馬鈴薯、ビート、えん麦、牧草等が作付けられている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

作土の地力は中庸であるが、今後、大型農具の導入により、深耕がますます広く行なわれると思われるが、心土が強酸性で磷酸の固定力が大きい。従つて深耕時には石灰、磷酸肥料の増量と合わせて堆肥施用をゆるがせにできない。

D 分布 広尾郡広尾町中豊似

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

尾 張 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ19cm内外、土性はSLである。腐植含量9.2%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく、発達弱度の粒状構造、孔隙なし、ち密度15で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ21cm内外、土性はLiCである。腐植含量21.3%、色は10YRで彩度1、明度1である。小円礫あり、発達弱～中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度20で中、pH(H<sub>2</sub>O)

5.4、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm内外、土性はCLである。腐植含量11.7%、色は10YRで彩度2、明度2である。小円礫あり、発達弱～中度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.4  
下層との境界は不規則明瞭である。

第4層は60cm以下で円礫層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町尾張 試坑No153

第1層	0～19cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/2)のSL、礫なく、発達弱度の粒状構造、孔隙なし、ち密度1.5で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、層界判然。
第2層	19～40cm	腐植に富む黒(10YR 1/1)のLiC、小円礫あり、発達弱～中度の粒状構造、細孔あり、ち密度2.0で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、層界判然
第3層	40～60cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のCL、小円礫あり、発達弱～中度の粒状構造、孔隙なし、ち密度1.9で中、層界不規則明瞭。
第4層	60cm～	円礫層である。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～19	3.5	30.5	37.7	25.6	6.3	SL	70.4	2.41	5.33	0.41	13
2	19～40	8.0	7.0	38.1	27.0	27.9	LiC	67.8	2.02	12.37	0.73	17
3	40～60	6.0	12.4	37.3	30.1	20.2	CL	66.9	2.35	6.78	0.52	13

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	9.2	5.6	4.5	2.00	18.3	5.52	1.05	0.46	30.1	8.53	1.2
2	21.3	5.4	4.3	10.25	16.5	4.90	2.18	0.45	29.6	1.739	0.2
3	11.7	5.4	4.4	2.50	35.5	0.35	0.18	0.29	11.3	2.273	tr

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては松山統、中紋別統、尾張統があるが松山統、尾張統とは母材、堆積様式乾湿が異なり、中紋別統とは母材、堆積様式が異なるので各々区分される。

#### A-3 母材

非固結火成岩/非固結水成岩

#### A-4 堆積様式

風積/水積(河成沖積)

#### B 地形

平坦

#### C 気候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温の低下の較差が大きく、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

#### D 植生及び利用状況

一部林地や放牧地となつては大部分は耕地として利用され、主に牧草、ビート、大豆、えん麦等が作付けられている。

E 農業上の留意事項

排水を呈するから明渠、暗渠排水が必要である。塩基の状態が不良であるから堆厩肥と石灰の補給が大切である。

F 分布 広尾郡広尾町 尾張

調査及び記載責任者 菊地晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
尾張南統一尾張南区	IIIwa II d g f n i e

② 土壤区別説明

尾張南統一尾張南区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土表表表透保湿、保固土置有微酸有物増地自傾人侵耐	生土土耘土土の	然	層分換"効態量	害理冠え	害質的害の	斜為	水風
産土のののの乾の水土潤肥定塩の石苦加磷害質的害のの	力の層のののの結土の	水	基灰土里酸要	の障危危傾傾	無性度度斜向斜	性性	蝕蝕
可能厚含難土着硬乾	性性性性	沃	状豐量"	" "	" "	" "	" "
等級ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
III I II II I	1 1 2	III 3 3 3	II 2 2 2	II 1 2 1 3	- 2 II 1 2	III 3 1 I 1	-- II 1 1 2
簡略分級式 IIIwa II d g f n i e							

A 土壤区の特徴

この土壤区は尾張南統に属する。表土の厚さは25cmで深い、有効土層は50~100cmでやゝ深い。土性は壤質で農具の使用にあたってわずかに抵抗を感じる。透水性は良、保水性は中であるが地下水位が高いので排水不良となつている。保肥力中、固定力小、自然肥沃度は中庸である。石灰、加里は多いが、燐酸が少なく養分の豊否は中庸である。酸度も中である。増冠水を受ける危険性がかなり大きい。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

一部林地や放牧地となつて利用されているが大部分は耕地として利用され主に牧草、ビート、大豆、えん麦等が作付けられている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

排水を呈するから明渠、暗渠排水が必要である。塩基の状態は不良であるから堆厩肥と石灰の補給が大切である。

D 分布 広尾郡広尾町尾張



昭和41年3月31日

野 塚 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~20cm、腐植含量7.4%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2、明度2で小円礫あり、構造は無構造、ち密度1.5~1.9で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後、下層との層界は直線明瞭である。

第2層は腐植含量少なく、土性はSLである。色は2.5Yで彩度6、明度5で小円礫あり、発達弱度の粒状構造、塊状構造、ち密度1.5~1.7で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.9前後、下層との層界は不規則明瞭である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡広尾町 野塚 試坑163

第1層	0~14cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/2)のSL、小円礫あり、無構造、細孔あり、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半乾、層界直線明瞭。
第2層	14~60cm	腐植を欠く明黄褐(2.5Y 5/6)のSL、小円礫含み、発達弱度の粒状塊状構造、細孔あり、ち密度1.7で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半乾、層界不規則明瞭。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~14	3.5	22.9	45.5	22.2	9.3	SL	97.0	2.29	4.48	0.29	15
2	14~60	2.3	8.4	75.1	11.9	4.5	SL	102.7	2.68	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	7.45	5.6	4.4	4.00	15.9	3.4	0.4	1.7	21.1	1.277	3.9
2	—	5.9	4.5	3.00	7.4	0.5	0.3	0.2	6.9	6.69	2.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、香福統、香福南統とがあるが、香福統とは成因、堆積様式が異なる。香福南統とは礫層の有無により本統と区分される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積(河成堆積)

B 地形

標高 50~70m で平坦

C 気 候

夏季海霧があり、一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、かつ較差が大き、しばしば冷害をうける気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分が放牧地、林地、荒地になつており、耕地として利用されるのは少ない。主に牧草、えん麦などの飼料作物が作付けられている。

E 農業上の留意事項

地力が劣るので塩基や堆肥の補給が大切である。

F 分 布 広尾郡広尾町 野塚

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
野 塚 統 一 野 塚 区	III nf II e

② 土壌区別説明

野 塚 統 一 野 塚 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	有 効 土 層 の 容 積 率	耕 作 土 層 の 容 積 率	耕 作 土 層 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 土 の 硬 さ	土 地 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	湿 潤 度	自 然 肥 沃 度	保 固 力	土 層 の 塩 基 状 態	養 分 含 量	置 換 性 石 灰 含 量	置 換 性 苦 土 含 量	置 換 性 磷 酸 含 量	有 効 磷 酸 含 量	酸 害 性	障 害 性	化 学 的 障 害 性	物 理 的 障 害 性	傾 斜 性	自 然 傾 斜	傾 斜 方 向	人 為 傾 斜	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性	
III	t d g p					w				f		n						i			s						e		
簡略分級式	III nf II e																												

A 土壌区の特徴

この土壌区は野塚統に属する。表土の厚さは14~20cm内外、有効土層は70~100cmでやや深い。砂質で極小の小円礫があるが、農具の使用に当って抵抗は少ない。保肥力中、磷酸固定力は作土、心土共に小さい。塩基の状態は不良である。養分分は石灰、苦土含量は少ないが加里含量は多い。磷酸は中庸である。地形は平坦であるが河川に接しているために、多雨や融雪時に一時的に水蝕のおそれがある。特殊な障害はない。

B 植生及び利用状況

大部分放牧地、林地として利用され、耕地として利用されているのは少ない。主に牧草、えん麦等の飼料作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

地力が劣るので塩基と堆厩肥の補給が必要である。

D 分布 広尾郡広尾町 野塚、香福、中豊似

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

当 縁 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後、主としてヨシ、スゲからなる分解少々不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)5.2、下層との境界は直線明瞭。

第2層は厚さ10cm前後、灰白色と黒色の混合からなる粗粒火山灰。単粒構造、pH(H<sub>2</sub>O)5.8、下層との境界は直線明瞭。

第3層は厚さ17cm前後、ヨシ、ホロムイヌゲを主とする分解少々不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)5.1~5.3。下層との境界は直線少々明瞭。

第4層は厚さ15~20cm、ホロムイヌゲ、ヨシ、ハンノキからなる分解不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)4.9前後。下層との境界直線少々明瞭。

第5層は地表から概ね60cm以下で、ヨシ、ホロムイヌゲからなる亜泥炭。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町字美成 試坑 №115 (未耕地)

第1層	0~15cm	ヨシ、スゲからなる泥炭、分解少々不良、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、層界直線明瞭。
第2層	15~28cm	灰白と黒の混合色からなる粗粒火山灰、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、単粒構造、層界直線明瞭。
第3層	28~45cm	ヨシ、ホロムイヌゲからなる泥炭、分解少々不良。pH(H <sub>2</sub> O)5.1、層界直線少々明瞭
第4層	45~63cm	ホロムイヌゲ、ヨシ、ハンノキを主材とする泥炭、pH(H <sub>2</sub> O)4.9層界直線少々明瞭。
第5層	63cm~	ヨシ、ホロムイヌゲをかなり含む亜泥炭。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	燐酸吸 収係数	有効態燐 酸mg/100g
			H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	0-15	8.2	5.2	4.4	13.11	29.0	3.6	1.6	0.4	12.4	1306	tr
2	15-28	0.9	5.8	4.9	1.50	5.4	0.3	0.4	0.0	5.6	520	tr
3	28-45	6.6	5.1	4.1	21.25	34.2	6.5	2.5	0.2	19.1	—	—
4	45-63	5.3	4.9	4.1	16.73	—	4.5	3.1	0.1	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、美成統、更正統、萌和統、アイボジマ統等があるが、美成統、更正統、萌和統とは堆積様式が異なり、又アイボジマ統は中間泥炭なので、各々本統と区別される。

A-3 母材 ヨシ、スゲ

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）

B 地形

標高10m前後の低平地及び標高40m前後の低平地。

C 気候

夏季の気候冷涼で、春夏海霧の影響を受ける。秋季は比較的良好となるが、気温が低下する。

D 植生及び利用状況

殆んど原野として放置されているが、一部家畜の放牧に利用しているところもある。

原野には谷地坊主が存し、ヨシ、スゲ、ヤチヤナギ、ワレモコウ、ゼンマイ等が繁茂し、ヤチハンノキが散在して群生する。

E 農業上の留意事項

農地として利用する場合は、基幹となる幹線大明渠の掘さくをし、計画的な明渠排水、暗渠排水工事を施行して土地の排水を図ることが最も必要である。

酸性を呈するから、排水施行後酸性矯正をしなければならない。

尚、谷地坊主が多く存在するので、開墾に当つては機械力等による排除が好ましい。

磷酸、加里の含量が比較的低いから開墾当初は多肥が必要である。

D 分布 広尾郡広尾町 当縁

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
当 縁 統 一 当 縁 区	Nw IIIfn II t

② 土壌区別説明

当 縁 統 一 当 縁 区

示性分級式（畑）

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	土 表 効 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 土 の 硬 さ	土 地 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	自 然 潤 沃 度	保 肥 力	固 定 力	養 分 の 塩 基 状 態	置 換 性 石 灰 含 量	置 換 性 苦 土 含 量	置 換 性 加 里 含 量	有 効 態 磷 酸 含 量	酸 害 性	障 害 性	傾 倒 斜 性	傾 倒 斜 性	傾 倒 斜 性	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性	
	t	d	g	p	w	f	n	i	s	e														
	II	I	I	I	1	1	1	IV	3	3	3	III	1	2	3	III	3	1	2	3	2	I	1	1
	簡略分級式 Nw IIIfn II t																							

### A 土壌区の特徴

この土壌区は当縁統に属する。表土は15cm内外で少々浅く、有効土層は1m以上で深い。最近層近く粗粒火山灰層が存在する低位泥炭で、主材はヨシ、スゲ類から構成されている。最下層は鈣質土壌を混ざる重泥炭である。

保肥力大、磷酸固定力中庸で、塩基状態は不良である。

養肥分は磷酸、加里含量が少ない。

### B 植生及び利用状況

殆んど原野のまま放置されているが、一部家畜の放牧に使用している。

### C 地力保全上の問題点

アイボジマ川流域に広がる地帯は現在幹線大明渠排水工事がかなり進んでいるので、今後計画的な集水明渠排水と暗渠排水の実施が必要である。

次に酸性矯正が必要である。炭カル所要量は概ね600Kg/10a前後である。更に熔成磷酸等の投入(40~50Kg/10a)が望ましく、土壌は磷酸、加里等に欠乏しているから、これらを中心に施肥を考えることが望ましい。

### D 分布 広尾郡広尾町共栄

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

## 3、保全対策地区区分及び説明

### 1) 保全対策地区の説明

土壌の性状及び主要な保全対策を検討の上、次の9保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
更正	更正 紋別 香福	1099	平坦、乾燥地、風蝕大 腐植含量少ない、 作土層が浅い、 下層土の磷酸吸収力が大きい。	防風林の完備 緑肥作物の増加及び堆肥の肥用。 磷酸肥料の多施 有機物を多用しつつ漸次深耕
蒔和	尾張南 紋別西	458	平坦、排水不良、 酸性を呈す、 作土層が一般に浅い	河川改修の促進 暗渠排水の実施 炭カルの施用 漸次深耕
石坂	中豊似塚 野塚	537	平坦、 一般に腐植含量が少ない 酸性を呈す	有機物を施用しつつ漸次深耕 炭カルの施用
東和	尾張 広尾	312	平坦並びに一部緩傾斜地 適湿である 下層土の磷酸吸収力が大きい。	有機物、塩基を補給し漸次深耕 磷酸肥料の多施
日方川	西野塚	165	平坦、地表から巨大礫 有効土層が浅い 腐植含量少ない	除礫 緑肥作物の増加及び堆肥の施用

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ka)	主な特徴	重要な保全対策
アイボンマ	当 緑	20	平坦 泥炭及び泥炭質土である 排水不良 酸性を呈す	幹線大明渠 客土 酸性矯正 保全耕作
ベ タ ン	中 楽 古	421	傾斜地 水蝕をうける 1時的に過湿となる 有効土層が浅い	保全耕作 捕水渠の設置
松 山	松 山 香 福 南	1,777	平坦 風蝕大 乾燥地 腐植含量少ない 有効土層が浅い	防風林の完備 除礫 緑肥作物の増加及び堆厩肥の 施用
光 知 園	中 紋 別	61	平坦～緩傾斜地 排水不良地 酸性を呈す 心土の磷酸吸収力大きい	明渠、暗渠排水の実施 炭カルの施用 磷酸肥料の多施

## 2) 保全対策地区説明

### <更正保全対策地区>

#### (1) 分布状況

郡市町村名	畑面積(ka)	備 考 (該当土壌区名)
広尾郡広尾町	1,099	更正統一更正区、紋別統一紋別区、香福統一香福区

#### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

##### ① 特徴と問題点

平坦もしくは波状性緩傾斜地で水蝕は軽微であるが、春季一時的な乾燥期に季節風の襲来によって風蝕を受け、かなりの被害を被っている。表土は主として粗粒の火山灰からなり、腐植含量少なく、養肥分の保持力は比較的小さく、流亡し易いものと思われる。一般に表土が少々浅く、風蝕によって更に表土の薄くなっているところが多い。有効態磷酸含量が少なく、苦土に欠乏している。

##### ② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれているが、最近乳牛を主とする主畜経営への転換を行ないつつあることは気候的、土壌の条件から見て妥当であると思われる。牧草地を拡大して風蝕の放止を軽減すると共に、堆厩肥、緑肥等の有機物の施用によって保肥力の増大と地力の増進を図り、併せて漸次深耕して作土層を深めて行くことが大切である。主畜経営への移行途上にあり、又一部には経営転換の途上に於いて伸び悩みの状態にあるものがある。可及的早期に主畜経営の確立を期すことが望ましい。

##### (3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
防風林の完備	更正統 紋別統 香福統 1,099ka	幹線防風林の整備 計画的伐採 耕地防風林の整備育成 牧草導入	カラマツ苗木の購入補助 牧草種子の補助

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
牧草地の拡大 堆厩肥施用	更正統 紋別統 香福統 1,099ha	主畜経営の推進確立	乳牛導入の補助 畜産施設の融資補助
漸次深耕	〃	緑肥作物の導入 有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入助成
施肥の合理化	〃	燐酸、加里、石灰、苦土の施用	石灰(200~300Kg/10a) 苦土(4~6Kg/10a)

< 萌和保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積(ha)	備考(該当土壌区)
広尾郡広尾町	458	尾張南統一尾張南区、紋別統一紋別区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

平坦～緩傾斜地で腐植層が深く最表層は粗粒火山灰層で被覆されている。地下水位が高く排水不良である。また作土、心土共に塩基状態が不良である。従つて積極的に排水を行ない、石灰、堆厩肥を施用して地力を向上するように努めるべきである。

② 営農の方向

穀菽経営、混同経営、主畜経営等が営まれているが、本地帯の気候的な影響で主畜経営の方向に進みつつあるが経営の不振な農家が多いようである。土地基盤整備、土壌改良によつて生産力の向上を計り、家畜の増加を計ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	尾張南 紋別西 458	河川改修の促進 暗渠排水、一部捕水渠の設置	土管、工事費の補助
酸性矯正	〃	炭カル施用	炭カル(200~300Kg/10a)

<石坂保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 ( 該当土壌区 )
広尾郡広尾町	537	中豊似統一中豊似区、野塚統一野塚区

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

地力は一般的に中庸である。腐植含量が少ない。塩基の状態が悪く、酸性を呈している場合が多い。積極的に石灰、堆厩肥を増肥し漸次深耕して行くべきである。

② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれているが、最近乳牛を主とする主畜経営への転換を行ないつつあることは気候的、土壌的に見て妥当であると思われる。しかし経営の不振な農家が多いようであり、土地基盤整備、土壌改良によつて生産力の向上を計り、家畜の増加を計ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物の施用	中豊似 野塚 537ha	堆厩肥、緑肥の施用	有畜経営の推進
深耕	"		トラクター導入助成
酸性矯正	"	炭カルの施用	

<東和保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 ( 該当土壌区 )
広尾郡広尾町	312	尾張統一尾張区、広尾統一広尾区

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

平坦もしくは波状性緩傾斜地で水蝕のおそれは少ない。しかし春季の一時的な乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕を受ける。表土は粗粒の火山灰からなり、腐植含量は深いが養肥分の保持力は比較的弱く、流亡しやすいものと思われる。有効態磷酸含量は少ない。

② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれているが、最近乳牛を主とする主畜経営への転換を行いつつあることは気候的、土壌的に見て妥当であると思われる。牧草地を拡大して風蝕の防止を軽減すると共



に、堆厩肥、緑肥等の有機物の施用によつて保肥力の増大と地力の増進を計り併せて漸次深耕して行くべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
牧草地の拡大 堆厩肥の施用	尾張 広尾 312ha	主畜経営の推進、確立	乳牛導入の補助 畜産施設の融資補助
施肥の合理化	〃	磷酸、加里、石灰、苦土、肥料の施用	石灰(200~300Kg/10a) 苦土(4~6Kg/10a)
漸次深耕	〃	有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入助成

<日方川保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積(ha)	備考(該当土壌区)
広尾郡広尾町	165	西野塚統一西野塚区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

河川の流域に分布する最も新しい沖積である。土層の状態が少々乱雑で有効土層が浅い。地表から巨大礫が散在し農耕上支障をきたすところがある。又一部過湿のおそれがある。地味はやゝ良好である。

② 営農の方向

混同経営、もしくは穀菽経営が行なわれている。一般に腐植含量少なく、極端に巨礫層の浅いところもあるから堆厩肥、緑肥等の有機物を施す必要がある。従つて家畜を加味した経営の推進が望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物の施用	西野塚 165ha	堆厩肥、緑肥の施用	有畜経営の推進
除礫一部客土	〃	礫層が浅く、早害を破るところは埴質土壌を客入	

＜アイボシマ保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
広尾郡広尾町	20	当緑統一当緑区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

ヨシ、ハンを主材とする低位泥炭土である。最表層に粗粒質の火山灰層が存在し、耕地として利用する場合はこの火山灰と泥炭の一部が混合している。泥炭の分解は不良で、当然排水は不良で酸性を呈する。燐酸、加里等の養分含量も少ない。これが耕地化するためには計画的な明渠排水、暗渠排水の施工、酸性矯正、燐酸資材の投入等多大の経費と働力を要する。

② 営農の方向

排水工事の施工については当初から計画的に実施することが望ましい、台地との境界は伏流水があるので排水渠の施工も合わせて考慮することが望ましい。海霧の影響をかなり強くうけるので牧草栽培を中心とした主畜経営が好ましいと思われる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	当 緑 20ha	幹線大明渠排水 明渠、暗渠排水	明渠、暗渠排水工事費の補助
酸性矯正	”	機械力使用 炭カル施用	炭カル(450~600Kg/10a) ライムソア-導入助成
燐酸、加里の補給	”	熔成燐肥の施用 加里肥料の増施	熔燐(40~50Kg/100g)
客 土	”	粘土の客入	

＜ペタン保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
広尾郡広尾町	421	中楽古統一中楽古区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表層は一般に粗粒質で耐水蝕性に乏しく、融雪時、降雨時には水蝕をうける。又伏流水の影響により過湿になるおそれがある。また礫層が表層から出現するので障害をうける。

② 営農の方向

本地帯の気候の影響で主畜経営の方向に進みつつあるが、経営の不振な農家が多いようである。土地基盤整備、土壌改良によつて生産力の向上を計り、家畜の増加を計ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
水 蝕 防 止	中楽古 421ha	流水防止明渠排水 牧草栽培、緑作帯の設置	指導の徹底
排 水	〃	排水渠の設置	指導の徹底

< 松山保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
広尾郡広尾町	1,777	松山統一松山区、香福南統一香福南区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

平坦地で水蝕の心配は少ないが、春季一時的な乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕をうけ、かなりの被害を被る。表層土は粗粒の火山灰土からなり腐植含量少なく養肥分の保持力は比較的小さく流亡し易いものと思われる。一般に表土が少々浅く、風蝕によつて更に表土の薄くなつているところが多い。有効土層が浅く、表土に礫の出現する場合もある。

② 営農の方向

豆類を主とする穀類経営が行なわれて来ているが、最近乳牛を主体とした主畜経営への転換を行ないつつあることは気候的、土壌的条件から見て妥当であると思われる。

従つて牧草地を拡大して風蝕の防止軽減を計るとともに、堆厩肥、緑肥等の有機物の施用によつて保肥力の増大と地力の増進を計り併せて漸次深耕して作土層を深めて行くことが大切である。礫層の近いところでは除礫が必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
防風林の完備	松山 香福南 1,777ha	幹線防風林の整備 計画的伐採 耕地防風林の整備育成	カラマツ苗木の購入補助
牧草地の拡大 堆厩肥の施用	〃	主畜経営の推進確立	乳牛の導入の補助 畜産施設の融資補助
除 礫	〃		
漸 次 深 耕	〃	有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入助成

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
施肥の合理化	松山 香福南 1,777ha	燐酸、加里の増肥 苦土の施用	苦土(4~6Kg/10a)

<光知園保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
広尾郡広尾町	61	中紋別統一中紋別区

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

平坦～緩傾斜地で表層は粗粒な火山灰からなる地下水位が高く排水不良地となつている。また塩基の状態も悪く酸性を呈している。有効態燐酸も少ない。従つて排水を行い、積極的に石灰、燐酸肥料を投入し、同時に堆厩肥を施用しつつ漸次深耕すべきである。

(2) 営農の方向

最近、乳牛を主体とする主畜経営への転換を行いつつあることは気候的、土壌的に見ても妥当であると思われる。しかし経営の不慣れた農家が多いようであり土地基盤整備、土地改良などによつて生産力の向上を計り、家畜の増加を計ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	中紋別 61ha	暗渠、明渠排水	明渠、暗渠排水工事費の補助
酸性矯正	〃	機械力の使用 炭カル施用	炭カル(200~300Kg) ライムソア-導入助成
施肥の合理化	〃	燐酸、加里の増肥	熔燐(40~50Kg/10a)

2) 土壤分析成績

保全 对策 区	土地 地点 番号	層 位	深 cm	理 学 性										化 学 性																
				風乾 土中		細土無機物中						土 性	現地における理学性 100cc容中					pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			置 換 容 量 塩 基 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
				水	腐	粗	細	砂	シ	粘	容		固	水	空	孔	H <sub>2</sub> O	KCl	T-C		T-N	C/N	CaO		MgO	K <sub>2</sub> O				
				分	植	砂	砂	合	ル	土	積	相	分	気	隙	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
更 正	75	1	0~18	3.2	51	30.5	46.3	76.8	141	92	SL	706	291	35.9	35.0	70.9	62	5.2	0.50	2.93	0.21	14	10.6	95.3	10.1	5.8	32.0	842	28	
		2	18~25	8.2	7.9	12.3	50.1	62.4	37.6	0	L	646	26.7	51.9	21.4	73.3	59	4.9	0.75	4.57	0.32	14	19.0	67.3	8.1	8.6	12.6	-	tr	
		3	25~37	6.4	2.1	13.2	53.0	66.2	33.8	0	SL	742	24.6	43.2	32.2	75.4	60	4.9	0.75	1.20	0.15	8	12.9	44.9	8.1	6.7	12.4	-	-	
		4	37~50	10.0	1.2	27.1	69.1	96.2	3.7	0	-	-	-	-	-	-	65	5.1	0.50	0.68	0.09	8	18.4	16.9	14.1	5.6	3.0	-	-	
紋 別	35	1	0~20	3.2	6.6	37.0	34.4	71.4	21.0	26	SL	901	47.4	46.2	6.4	52.6	5.3	4.6	2.25	3.95	0.29	14	16.8	146.3	1.98	8.4	31.1	99.8	12.3	
		2	20~40	9.1	11.7	4.3	34.7	39.0	44.6	16.4	CL	65.6	33.7	50.5	15.8	66.3	5.5	4.5	4.75	7.49	0.55	14	35.7	82.4	6.9	25.6	8.2	2683	2.0	
		3	40~55	6.9	-	5.2	53.3	58.5	26.3	15.2	CL	62.3	25.9	53.1	21.0	74.1	5.5	4.5	4.50	-	-	-	24.4	36.1	6.5	15.5	5.3	229.3	-	
		4	55~	5.7	-	2.9	51.4	54.3	4.4	41.2	LiC	-	-	-	-	-	5.3	4.3	12.50	-	-	-	17.6	71.3	55.9	16.5	14.4	164.2	-	
正 香 福	27	1	0~15	4.9	6.2	24.5	33.9	58.4	28.0	13.5	L	799	36.9	44.1	1.90	63.1	5.7	4.9	1.75	3.79	0.35	11	17.3	109.4	21.2	45.1	22.6	156.3	7.3	
		2	15~25	6.2	8.8	10.8	39.9	50.7	39.6	9.7	L	-	-	-	-	-	5.2	4.4	4.00	5.44	0.36	15	22.9	33.8	10.7	80.3	5.3	21.79	1.4	
		3	25~48	3.8	-	11.6	48.1	59.7	29.7	10.6	L	-	-	-	-	-	5.4	4.4	4.75	-	-	-	11.7	18.4	7.9	45.5	5.6	134.0	-	
萌 張 南	153	1	0~19	3.5	9.2	30.5	37.7	68.2	25.6	63.2	CL	66.3	29.2	37.1	33.7	70.8	5.6	4.5	2.00	5.33	0.41	13	18.3	154.2	22.2	25.6	30.2	85.3	1.2	
		2	19~40	8.0	21.3	7.0	38.1	45.1	27.0	27.9	LiC	84.5	33.5	51.0	15.5	66.5	5.4	4.3	10.25	12.37	0.73	17	16.5	137.4	44.4	23.6	29.1	1,739	0.2	
		3	40~60	6.8	11.7	12.4	37.3	49.7	32.1	20.2	CL	79.3	28.5	50.8	20.7	71.5	5.4	4.4	9.50	6.78	0.52	13	35.5	11.2	4.0	14.1	1.0	227.3	tr	
和 紋 別 西	46	1	0~15	3.3	5.8	30.2	32.8	63.0	22.4	14.5	L	91.6	39.3	43.7	17.0	60.7	5.5	4.3	3.00	3.45	0.29	12	17.2	224.7	26.1	8.4	44.6	73.8	14.9	
		2	15~40	4.3	3.1	4.9	44.9	49.8	25.8	24.4	CL	102.9	41.5	41.5	17.0	58.5	5.4	4.0	11.75	1.90	0.20	10	22.5	289.5	39.6	17.0	45.9	108.6	2.6	
		3	40~57	4.2	2.6	14.9	44.6	59.5	21.7	18.8	CL	-	-	-	-	-	5.4	4.0	10.50	0.16	0.16	10	21.0	230.6	55.3	16.3	39.1	1,040	-	



保 全 対 策 区	土 地 層	点 番 号	位 号	深 さ cm	理 学 性										化 学 性															
					風乾 土中		細土無機物中						土 性	現地における理化学性 100cc容中					pH		置 換 有 機 物			置換容量塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 mg/100g	有効態 磷酸	
					水 分	腐 植	粗 砂	細 砂	砂 計	シル ト	粘 土	容 積 重		固 相 容 積	水 分 容 積	空 気 容 積	孔 隙 率	H <sub>2</sub> O	KCl	置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	T-C %	T-N %	C/N	置換容量 塩基 me/100g	CaO	MgO				K <sub>2</sub> O
					%	%	%	%	%	%	%	g	cc	cc	cc	%								mg/100g						
アイ ボン マ	当 緑	115	1	0~15	82										52	44	13.11					290	3.6	1.6	34	124	1306	tr		
			2	15~28	0.9											5.8	4.9	1.50					54	0.3	0.4	30	56	520	tr	
			3	28~45	6.6											5.1	4.1	21.25					34.2	6.5	2.5	32	191			
			4	45~63	5.3											4.9	4.1	16.75					-	4.5	3.1	0.1	-			
ヘ タ ン	中 楽 古	91	1	0~14	4.6	10.1	23.9	30.3	54.2	26.1	19.7	CL	97.6	44.6	44.4	11.0	55.4	5.0	4.0	12.75	6.15	0.43	14	25.5	142.8	24.1	39.7	20.0	1,013	10.5
			2	14~24	4.5	3.9	6.4	26.6	33.0	37.9	29.1	LiC	90.6	38.1	41.9	20.0	61.9	5.3	4.1	15.25	2.36	0.19	12	19.2	9.92	26.4	22.9	18.4	1,249	2.5
			3	24~50	4.8	6.1	3.8	19.8	23.6	41.0	35.4	LiC	-	-	-	-	-	5.4	4.1	13.00	3.72	0.26	14	23.1	110.4	18.6	17.1	17.0	1,432	-
松 山	松 山	12	1	0~18	3.9	6.3	28.4	42.1	70.5	22.9	6.6	SL	77.9	30.1	35.4	34.5	69.9	6.0	4.9	1.25	3.65	0.25	15	12.9	9.53	8.1	10.4	26.6	9.82	16.2
			2	18~23	4.3	6.7	22.5	43.4	70.9	23.8	5.3	SL	82.9	31.8	36.2	32.0	68.2	5.9	4.8	1.50	3.86	0.27	14	13.9	8.97	2.0	8.3	23.3	1,318	6.6
			3	23~40	5.2	3.2	9.4	50.3	59.7	37.0	3.2	L	75.6	27.5	52.1	20.4	72.5	6.0	4.9	0.75	1.86	0.17	11	13.6	44.9	8.1	13.1	11.5	1,770	-
			4	40~50	3.7	-	16.3	37.1	53.4	31.9	14.7	L	111.7	40.4	37.3	22.3	59.6	6.1	4.6	2.50	-	-	-	10.4	3.65	8.1	7.3	13.4	1,067	-
山 香 福 南	香 福 南	20	1	0~16	2.8	7.0	36.1	38.5	74.6	19.9	5.4	SL	-	-	-	-	-	5.5	4.4	3.50	4.20	0.28	15	14.3	7.59	13.1	17.4	18.9	9.06	8.0
			2	16~50	5.3	6.3	35.2	37.9	73.1	20.6	6.3	SL	-	-	-	-	-	5.6	4.6	3.25	3.85	0.25	15	17.2	11.2	10.6	7.3	2.3	1,809	2.5
光 知 園	中 紋 別	152	1	0~21	5.1	11.8	34.6	28.7	63.3	24.0	12.7	L	91.0	34.8	56.2	9.0	65.2	5.3	4.3	6.75	6.85	0.48	14	22.7	70.1	28.2	14.1	10.8	1,319	1.5
			2	21~40	10.2	27.0	2.2	18.7	20.9	37.7	41.4	LiC	87.0	22.3	64.7	13.0	77.7	5.2	4.1	17.25	15.69	0.91	17	-	115.0	34.3	23.6	-	2,556	0.9
			3	40~60	9.5	13.1	3.5	40.2	43.7	43.3	13.0	L	84.0	27.9	56.1	16.0	72.1	5.5	4.5	3.75	7.58	0.52	15	37.0	30.8	38.3	28.3	3.0	2,624	tr
			4	60~	7.7	-	7.8	58.1	65.9	25.2	8.9	SL	8.95	26.1	63.4	10.5	73.9	5.6	4.8	1.25	-	-	-	20.8	11.2	10.1	23.6	1.7	2,207	tr

## 広尾町

頁	行	正	誤
6	下から 11 行	風 蝕 を	前述の美成統にも増して風蝕を
18	表	48 cm～	40 cm～
40	上から 2 行	アイボシマ統	アイボシマ統
41	上から 2 行	最 表 層	最 近 層